

三重県立看護大学大学院
令和4年度修士論文
(特定課題)

題目：尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

学籍番号 221604

氏名 芝原 弥千代

目次

【本文】

I. 研究背景	1
II. 研究目的	3
III. 用語の定義	3
IV. 研究方法	3
1. 研究デザイン	
2. 研究対象者	
3. データ収集方法	
4. データ収集期間	
5. データ分析方法	
V. 倫理的配慮	4
VI. 結果	4
1. 研究対象者の概要（表1）	
2. 研究対象者らのストーリーライン	
1) A氏	
2) B氏	
3) C氏	
4) D氏	
5) E氏	
6) F氏	
7) G氏	
3. 尿もれ現象のある自立高齢男性の思い（表2）	
1) 尿もれ現象に忍従している	
2) これは歳だから仕方ない	
3) 尿もれ現象のために何度もトイレに行くのが辛くて困る	
4) 昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ	
5) 老いや死を感じさせ不安だ	
6) 尿もれ対処製品は、つけ心地、見た目が悪くて嫌だ	
7) 尿もれ対処製品を使うことで安心できる	
8) 尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい	
9) 尿もれ現象についての知識や情報がわからないのは不安だ	
10) 医療の力で頻尿が改善することに期待する	
11) 尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した	
VII. 考察	9
1. 全体像（図1）	
2. 尿もれ現象と共存していく思い	
1) 尿もれ現象は仕方がない	
2) 尿もれ現象は辛く、死をも連想させる	
3. 自分なりの対処についての思い	
4. 支援に対する思い	

5. 本研究を踏まえての CNS としての今後の課題	
VIII. 結論	13
IX. 研究の限界と今後の課題	14
X. 謝辞	14

【文献】

引用参考文献	14
--------	----

【資料】

I. 分析過程における図表

表 1	研究対象者の概要
表 2	コード、サブカテゴリー、カテゴリー一覧
図 1	全体像
資料 1	文献検討
1.	尿失禁により QOL に与える影響についての文献検討
2.	尿失禁に対する必要な支援についての文献検討
3.	尿失禁治療における医療側からの情報提供の必要性についての文献検討
4.	文献検討のまとめ

II. 本調査実施に関する書類

資料 2-①	研究協力依頼の説明書（研究協力施設）
資料 2-②	研究協力依頼の説明書（研究対象者）
資料 3	承諾書ならびに承諾撤回書
資料 4	同意書ならびに同意撤回書
資料 5	研究対象者紹介のご依頼
資料 6	インタビューガイド

I. 研究背景

泉ら（2015）は、「加齢による排尿メカニズムの変化は、高齢者の生活に大きな影響を及ぼす」と述べている。また高齢者の排泄について堀内ら（2015）は、「膀胱容量の減少による頻尿、残尿量の増加に伴う尿路感染リスクの上昇、膀胱収縮力の低下による尿意切迫感や頻尿、女性に見られる尿道内圧の低下による腹圧性尿失禁、男性の前立腺肥大症による尿閉や溢流性尿失禁などの出現により、トイレに行って用を足すという行為が自分の思い通りにできなくなってくることもある」ことを明らかにしている。これらのことから、高齢者にとって、排泄が自立して遂行できることは、生命と健康を維持し安寧に過ごせるために重要であると考ええる。

排泄問題に関して、解剖学的特徴から女性に関する尿失禁の先行研究は多い。中高年女性は尿失禁に対して、出産による影響と女性ホルモンであるエストロゲン低下による影響、生活習慣による肥満など複合的な要素も関係している。尿失禁に関する中高年女性の意識調査において田尻ら（2019）は「老化によるもので仕方がないと捉える反面、中高年はまだ社会的役割を担っていることが多く臭いが気になる、恥ずかしいので他人に言えない、など羞恥心から他人に気づかれたくない、なんとかしたいと考えている」という思いを明らかにしている。ここからは、中高年になると加齢を自覚して老化現象として受け止めている気持ちと、尿臭などから尿失禁のあることを他者に気づかれたくない、恥ずかしい、という気持ちの両側面を持ち合わせていることがわかった。またその対処法については、仕方がないと受け止め、便利で低コストの衛生材料の利用やその状況を少しでも改善しようと自己の知識の元で、体操などを実施していることが明らかとなった。続いて自立高齢女性を対象にした他者との交流に及ぼす影響について、西村ら（2015）は「尿失禁を打ち明けることの抵抗があり、そこには尿失禁のある人とのレッテルを貼られたくないという、尿失禁に対するスティグマにより周囲の人から距離を置かれることへの不安や他者との交流への障壁に結びついている」と述べている。これらのことから、女性の尿失禁については経過が長く原因も異なることや、尿失禁の受け止め方は様々で、老化で仕方がないと捉える反面、できれば他者には知られずに自身でなんとかしたいという思いを抱いていることが窺える。加えて、高齢女性の QOL に多大な影響を与えていることは明らかであると考ええる。

しかし、高齢男性独自の尿もれ現象に対する思いなどの先行研究は少ない。中澤（2018）は高齢男性の特徴を踏まえ、「前立腺が大きくなることで膀胱に溜めた尿を排出しにくくなり、膀胱が過敏になることや膀胱容量の減少により少量の尿しか膀胱に溜められなくなり頻尿になる」と述べている。そのことから昼夜を問わず頻尿は、高齢男性の日中の活動や夜間の睡眠状況の悪化、つまり日常生活の QOL に大きくマイナスな影響を及ぼすことが考えられる。そして前掲書の田尻ら（2019）の研究にもあるように女性同様、当然男性も困惑感や否定的な感情を抱き、他者に相談しづらい傾向があり精神的ストレスを抱えていることが予測される。また、尿もれ現象から起きるトイレトラブルや下着汚染などは、高齢夫婦間であっても羞恥心から相談しにくい状況であると予測できる。そして尿もれ現象を経験した自立高齢者は、自分でできる対処法として、パッドやトイレトペーパーなど何らかの尿を受けるためのものを使用していることが推察される。

ここでおむつの歴史を辿ると、一般社団法人日本衛生材料工業連合会（2008）によると、日

本では 1963 年に今日の紙おむつの構造と機能を持った最初の本格的紙おむつが 10 枚入り 1,100 円で発売された。1983 年には大人用では初のテープ型大人用おむつが、1994 年に大人用紙おむつにパンツ型が登場した。パンツ型おむつは、被介護者が自ら装着することができる製品であり、排泄ケアという役割を超えて高齢者の自立への意欲を刺激する高齢社会に対応した、高齢者の排泄自立というテーマを持っている特徴の製品である。また、近年は尿吸収だけを目的とする補助パッド類（以下パッドとする）など、尿もれ対処製品の開発が進み、パッドのみの交換で使用が可能となっている。その利便性は、尿を吸収したパッドを交換するだけですむという機能を持ち、紙おむつよりも低価格で経済的で手軽であるというメリットがある。パッドは、1988 年に 30 枚入り 890 円で発売され、現在は約 50cc の尿を吸収する薄手のものから 1,500cc を吸収できるものまで多様である。2014 年には男性用尿もれ専用パッドが 30 枚入り 800～1,000 円で発売されている。男性用パッドについて、駒形ら（2013）は、「陰茎にパッドを巻くのではなく、パッドにポケットやパウチのような尿を受けるものがついていて、パッドを巻くことで動きを制限されることなく、もれや臭いへの配慮もなされたものが開発、販売されている」ことを述べている。このように尿もれ現象に対する製品開発は遍歴を重ね、特に男性の尿もれ現象に対するパッドの開発、販売もなされてきている。しかし、それらの製品を使用するにあたって男性と女性では思いに性差が見られるのではないかと考えられる。たとえば、女性は生理時にナプキンを使用することは慣例であり、尿もれ現象に対してパッドを使用することに抵抗感が少ないことが考えられる。その一方で男性は、生理用ナプキン着用の経験などなく、パッドが有用であっても使うことへの抵抗感が強いことが考えられる。実際のところ、男性用トイレにはサニタリーボックスのようなパッドを捨てるところがなく、男性は汚染したパッドを携帯する負担を強いられることとなる。汚染したパッドの処理について男性がパッドを携帯することは、周囲に汚臭を気づかれてしまうのではないかという心的負担を抱かせることになると考えられる。つまり自立高齢男性は、対処方法についても精神的ストレスを抱えていることが推測できる。また、脳卒中患者や前立腺全摘除術後の患者に看護師が行う心理的支援について阿部ら（2017）は、「排尿に対する不安やつらさといった心理反応に注目し、患者が一人で悩みを抱え込んでしまわないよう適切な支援が求められる」と述べている。さらに、仙波（2016）は、「一般的に排泄に関する問題は、羞恥心を伴い他人には言い出しにくいことである。男性の前立腺がん患者の多くは自己の経験する精神的な反応よりも身体的症状を医療者に伝える傾向にあり、医療者は尿失禁の程度は理解できても、彼らが感じる日常生活への影響や困難さ、悩みを語らなければ知る機会は少なく、明らかにしにくい現状にある」と述べている。これらのように、疾患による症状として尿もれ現象が起こることが予期でき、医療者により支援介入がされている場合であっても羞恥心から日常生活の不安、悩みを打ち明けられずに 1 人で抱えていることが推察できる。

男性の排尿障害を引き起こす疾患である前立腺肥大症について、組織学的な前立腺肥大症は、50 歳から増加し 60 歳代で 60%以上になり、80 歳代では約 90%と加齢に伴い増加する（日本泌尿器学会、2017）と言われている。そのことから、60 歳代の高齢男性の 6 割以上は、前立腺肥大症に伴う尿もれ現象があることが推測される。そこで、自立高齢男性を対象に尿もれ現象への思いをインタビューを通して明らかにしていくことを目的とし本研究を実施していく。尿もれ現象への思いを知ることは、自立高齢男性の適切な排泄支援

方法を探索することに繋がり、安心して暮らすことにつながるのではないかと考える。

II. 研究目的

自立高齢男性を対象とし、尿もれ現象への思いを明らかにする。

III. 用語の定義

本研究における用語は以下のように定義した。

1. 尿もれ現象

日本泌尿器学会によると「尿失禁とは、自分の意思とは関係なく尿がもれてしまうこと」と定義づけられており、男性においては排尿障害を起こす代表的な疾患である前立腺肥大症があることから尿失禁の頻度が高い。また、『尿がもれる』と『尿失禁がある』の区別は明記されていない。本研究においては、昼夜問わず急にもよおす我慢できない頻尿状態、また頻尿により尿がもれ出てしまうこと、排尿後に尿が垂れる状態を指すものとする。また、尿失禁を引き起こすきっかけとなる疾患の有無に関わらず本人が困っている対処を必要とする状態のものを指す。

2. パッド

おむつの中に入れて、尿を吸収するために用いる吸収パッドを指す。本研究においては、パンツの中に入れて使用する男性用の陰茎に巻くタイプやパッドやパウチのついているもの、少量の尿を吸い取る尿失禁パンツも含み、尿もれ対処製品全般のこととする。

3. 自立高齢男性

自立とは他の援助や支配を受けずに自分の力で判断したり身をたてたりすること、独り立ちを意味する。また、排尿障害を引き起こすきっかけとなる前立腺肥大は 60 歳代で 60% 以上に見られる。そこで本研究においては、自らの意思で目的を持って言動、判断ができる 65 歳以上の男性を自立高齢男性とする。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

半構造化インタビューを行い、質的帰納的に分析を行った。

2. 研究対象者

65 歳以上の自立高齢男性で尿もれ現象がある者。そして研究の同意を得られた者とした。除外基準は前立腺全摘除術を受けた者とした。

3. データ収集方法

1) インタビュー開始前に、研究者は対象者に自己紹介をした。

2) インタビューはインタビューガイド（資料 6）を用いた 30 分程度の半構造化面接を実施した。面接時は対象者の許可を得て内容を全て IC レコーダーに録音するとともに、書面でも記録した。インタビューでは、尿もれ現象に対する思いとその対処法、日常生活への支障や不安、相談先の有無などについて自由に語ってもらった。

3) 非常にプライバシーに関する質問のため、インタビュー途中においてもその都度、話を聞かれて気分を害していないかなど対象者に尋ね、表情や行動の変化を観察しながら行った。

4) 対面式インタビューであるため、新型コロナウイルス感染防止策に準じた。

4. データ収集期間

2021 年 11 月から 2022 年 2 月

5. データ分析方法

面接内容を IC レコーダーに録音し逐語録を作成し、対象者 7 名の概要をストーリーラインとして簡潔に文章化した。作成された逐語録より、自立高齢男性から聴取した尿もれ現象への思いを文脈単位で抽出した。抽出された文脈の意味を損なわないように何度も確認しながらコード化を行い、その内容の共通性と類似性に基づいて分析し、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出し命名した。さらに、分析の信頼性と妥当性を確保するために指導教員の指導を受けた。

V. 倫理的配慮

本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得た後(通知書番号 212802)、研究協力を依頼する対象施設の施設長に口頭と文書を用いて研究目的・方法等を説明し、承諾を得た。研究協力施設より紹介を受けた対象者である、尿もれ現象のある自立高齢男性に対して、書面を用いて研究の目的・方法、参加や承諾後の撤回自由、研究成果の公表などについて説明し同意を得た。

VI. 結果

1. 研究対象者の概要 (表 1)

研究対象者は 7 名であった。研究対象者の年齢は、60 歳後半から 80 歳前半であり、平均 71.4 歳であった。インタビュー平均時間は、35 分であった。プライバシーに関する質問であったため、インタビュー中に気分を害していないか表情変化や声の大きさなどに注意を払い行った。中断、中止したものはなかった。

以下に各対象者のストーリーラインを記載する。

2. 研究対象者らのストーリーライン

1) A 氏

A 氏は、80 歳前半で妻は特別養護老人ホームに入居しているために独居で仕事はしていない。尿もれ現象は、5.6 年前くらいからあり、最初、夜間の排尿に行く回数が増えたと話していた。その後、度々外出時に少量のもれがあり、パンツがぬれてしまったことで、「こりゃ、いかん」と不安な気持ちを語っていた。対処方法として、普段から妻が使用している介護用のおむつを目にしていることもあり、はくタイプのおむつの使用に至り、現在もそれを使用している。はくタイプのおむつの使用については、「頻回に濡れたパンツを洗う手間もなくなるし、冬は履いていると暖かいし柔らかくて気持ちがいい」と語っていた。尿もれ現象について受診はしておらず、薬の服用もしていない。A 氏は、相談するところがなかったことから、「インターネットで調べた」「相談する相手、そんな場所がなくてどうして良いかわからず困った」「親身になって相談にのってくれる看護師さんがいてくれたらいいのに」などと話していた。

2) B 氏

B氏は、60歳後半でアパート経営をされており妻と2人暮らしである。尿もれ現象は、2年ほど前からあり、気づいたらズボンの前がぬれていることがあり「嫌だった」と話していた。対処方法として、尿がもれても目立たない色のズボンを選択したり、少量の尿を吸収できるパンツの着用や、外出時には車内に尿器や下着の着替えなどの準備をしていた。また、予め立ち寄るコンビニを決めてトイレを借用することや、インターネットで調べた骨盤底筋体操を行っていた。尿もれ対処製品については「ポケットがついたようなものがあれば、ぜひ使ってみたい」と語っていた。尿もれ現象に対して受診はしていない。尿もれ現象が少しでも軽減することを願い、市販の漢方薬を購入し服用していたが「あまり効果は感じなかった」と話していた。B氏は下着を汚染し洗濯物が増えることから、妻に尿もれ現象があることを伝えていた。妻は最初は驚いた様子があったが、今は「もう歳なんやで仕方ないやんか」と言ってくれていることで少し安心していると話していた。また友人に尿もれ現象を話した時に、同じような現象があることがわかると「同じかと思ったらそんな恥ずかしいわけでもないわ」と笑顔で話していた。尿もれ現象については、特に相談したところはなく「インターネットでいろいろ調べた」と話していた。

3) C氏

C氏は、70歳前半で妻と2人暮らしである。尿もれ現象は8年ほど前からあり、同時に排尿痛を伴うことがあった。一度、尿をもらしてしまったことがあり「はぁ・・・」とがっかりした気持ちになったと話していた。また、夜間の尿回数が多いことについて、「尿意を感じて起きなければならないことで、睡眠の質に影響を及ぼしているのではないかと不安になる」と語っていた。さらに、水道の蛇口をひねったり、灯油を入れたりすると、突然尿意をもよおして困ると話し、対処方法として「早めにトイレに行くようにしたり、外出中はコンビニなどのトイレを借りるようにしている」「1日30分くらい歩くようにしている」などと話していた。C氏は、尿もれ現象だけでなく、排尿時痛があったことで泌尿器科を受診し内服薬を服用中であった。内服薬により尿もれ現象の軽減効果はあまり感じていないが、「先生に見てもらっているから安心」と話していた。医師以外の相談相手として、妻にも現状を伝えたところ、もう歳なんだから仕方がないのではないかとわれ、「わかってもらえて安心した」と話していた。

4) D氏

D氏は、70歳前半で妻と2人暮らしである。仕事はしていないが、月に1.2度、仲間と介護施設への慰問活動を行っている。尿もれ現象は2年ほど前からあり、尿意を感じると我慢できなくなり、少しもれ出てしまうことがあった。また尿に勢いがいいことでしっかり出きらず、きれいの悪さを感じており、それらについて「歳をとったからかな」と語っていた。さらに、「夜間は2.3回起きることで、その後、入眠が妨げられることが困っている」と話していた。以前に1度、トイレを目前にして間に合わずにもれ出てしまったことがあり、「ショックだった」「がっかりした」と語っていた。対処方法として、通販サイトの広告で知った少量の尿を吸収できるパンツを購入したが、デザイン性やほき心地の悪さから着用にはいたらなかったと話していた。現在は、早めにトイレに行くことで対処をしている。今後、もらすことが増えてきたら、尿瓶を車に準備しておくことや尿とり対処製品の使用を考えていることを話していた。相談先として泌尿器科を受診したことはあるが、内服治療は行っていない。また、妻に尿もれ現象について伝えているが「まだ、そんな切実

な思いではない」と話していた。医師からは「加齢によるもので仕方ない、病気ではないと言われても、尿もれ現象があったり身近な人が亡くなったりといった話を聞くと、老いを感じて不安だ」と語っていた。

5) E 氏

E 氏は、現在、60 歳後半で仕事はしておらず妻と 2 人暮らしである。尿もれ現象は 1.2 年ほど前からあり、手を洗ったり食器を洗ったりすると、突然、尿意をもよおし我慢ができなく困っていると話していた。尿もれ現象について「きっと心因性のものだから、そんなに心配はしていない」と話していた。E 氏は、「その原因がわかったら怖いから嫌だ」と語り、インターネットなどで調べたくないと話していた。E 氏は対処方法として「水を使う前には予め、トイレに行くようにしている」や「車で遠出した際は、2.3 時間で休憩したり、スーパーなどでトイレを借りるようにしたり、自分なりに工夫をしている」と話していた。相談先として、泌尿器科の受診はしていない。妻や友人には「風呂に入ると急にしたくなる」と相談をしており友人から同様の話を聞くことで、「少し安心できる」と言っていた。さらに 60 歳を過ぎてからは、「尿もれ現象だけでなく、体力の衰えも感じるようになり健康に不安を感じるようになった」と語っていた。

6) F 氏

F 氏は、60 歳後半で仕事はしておらず妻と 2 人暮らしである。尿もれ現象は、2.3 年ほど前から気になり始めたと話していた。特に夜間に頻回にもよおす尿意について「夜中に数回起きることで睡眠が中断される」「また、眠るのに時間がかかる」などと話し、睡眠に及ぼす悪影響や不安を話されていた。対処方法として、ふくらはぎのマッサージを行ったり、運動を行っていると話していた。相談先として、定期的な受診で残尿検査を行い内服薬の服用をしているが、その効果は感じられていないと言っていた。また、友人とゴルフに出かけると「だいたいおしっこの話と目が見えにくい話になる」「自分だけでなくみんな同じだと思うと安心感が増します」「何か画期的な薬ができたらいいな」と語っていた。さらに、そのことは妻に伝えてあり、歳だから仕方ないわと言われていたことを話していた。加えて「尿もれや頻尿に対してだけでなく、歳をとってきたから健康には注意をしないとイケない」と語り、自らインターネットで食事のことを調べて健康管理を行っていると話していた。

7) G 氏

G 氏は、70 歳後半で仕事はしておらず、妻と 2 人暮らしである。40 年前から排尿トラブルがあり、ここ 10 年ほど前からは尿もれ現象があると話していた。以前は高校の教師をしており、授業中にもよおす急な尿意に対しては、すぐに対応できなかったことを振り返り「その時はとても困った」と話していた。対処方法として、尿意を感じたら早くにトイレに行くようにしていると話していた。相談先として、泌尿器科を 3 か所ほど受診し内服治療を行っている。内服での症状の軽減を望んでいるが効果は実感できていない。G 氏は、「自分では尿が近いことは非常に困っているけれど、尿の困りごととは命に係わるようなことではないから、コロナのように研究は進まないのだろう」「なんとか効果のある薬が出てほしい」と語っていた。また、このことについて、妻に相談はしていないが、「何度もトイレに行く様子を見えていますから、きっと尿が近いことを感じているだろう」と話していた。

3. 尿もれ現象のある自立高齢男性の思い（表 2）

分析した結果、386 のコード、29 のサブカテゴリー、11 のカテゴリーを抽出した。尿もれ現象のある自立高齢男性の思いのコード、サブカテゴリー、カテゴリー、を表 2 に示す。以下、コードは< >、サブカテゴリーは《 》、カテゴリーは【 】内に示した。また、文脈で理解が困難な箇所は（ ）内に言葉を補って示した。【尿もれ現象に忍従している】【これは歳だから仕方ない】【尿もれ現象のため何度もトイレに行くのが辛くて困る】【昼夜に問わず尿が出てしまことは嫌だ】【老いや死を感じさせ不安だ】【尿もれ対処製品はつけ心地、見た目が悪くて嫌だ】【尿もれ対処製品を使うことで安心できる】【尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい】【尿もれ現象についての知識や情報がわからないのは不安だ】【医療の力で頻尿が改善することに期待する】【尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した】の 11 のカテゴリーが得られた。以下にこの 11 のカテゴリーの詳細を述べる。

1) 【尿もれ現象に忍従している】

ここは、19 のコード、2 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象について、<今は、そんな逼迫した頻尿が全然ないので、そこまでの心配には至っていない感じ>と語り、《尿もれ現象はあるが、今はなんとか大丈夫》という思いを抱き、<その都度トイレに行くから、生活に支障をきたしていることは、今はない>と、尿もれ現象はあるが《頻尿に対して何度もトイレに行くことで対応している》思いが抽出された。

2) 【これは歳だから仕方ない】

ここは 19 のコード、2 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象に対して、<尿もれのことがあって心配なので、前立腺検査はずっとしているから、だから安心><おしっこのことだけでなく、歳のせい、ちょっと腰が痛いのですが、なるべく体を動かすように心がけているんです>と語り、尿もれ現象だけでなく加齢に伴うその他の症状を感じながらも、《尿もれ現象と前向きに向き合いながら健康に暮らしていきたい》との思いを抱いていた。また、<尿もれが 60 代、誰にもあると思ったら、自分だけがすごく恥ずかしいわけではないから前向きでいたいと思う>との語りから、尿もれ現象に不安を抱きながらもこの症状が自分だけではないことから、《尿もれ現象は、もう笑い話にする》という思いが抽出された。

3) 【尿もれ現象のために何度もトイレに行くのが辛くて困る】

ここは 55 のコード、4 のサブカテゴリーで構成された。対象者は、<今までだったら、30 分、1 時間我慢できたおしっこが我慢できなくなって困る>と語り、《頻繁な尿意への不安》な思いや<頻尿であることが一番苦痛で困っている>と、頻繁にもよおす尿意に対して、《トイレに行く回数が多くて困る》思いを抱いていた。また、<寒くなってくると、夜中に何回も起きるのが寒くて嫌です>と夜間、尿意のために何度か起きなければいけないことに対して、《夜間頻尿は困る》思いを抱き、さらに<一度、夜間にトイレに起きるとその後、眠れなくて睡眠の質が落ちるのではないかという不安がある>と夜間に何度か起きることで、《睡眠を妨げられることが辛い》という思いが抽出された。

4) 【昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ】

ここは、48 のコード、3 のサブカテゴリーで構成された。対象者は不意にもよおす我慢できない尿意から<車に乗っている時にちょびっと漏れてしまうことがあって、こりゃい

かん、と思いました>と失敗体験を語り、《パンツを濡らしてがっかりした》思いや<我慢していると出てしまい、ぱっと見たらおしっこでズボンが濡れていて辛い>と、尿もれ現象により、《自分の意に反して、ちょろっと出てしまうことは困る》と感じ、<尿もれや頻尿というのは、毎日のことなので嫌です><尿もれがあると、常に漏れていないか、と気にしなくてはならなくていやだ>と、《日常的に起こる尿もれ現象は嫌だ》という思いが抽出された。

5)【老いや死を感じさせ不安だ】

ここは 13 のコード、1 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象に対して、<私、ドックで前立腺の検査を受けているのですが、ドックでは異常はないと言われていきます、でも（おしっこが近いのは）なぜだろうと心配になる>と不安な思いを抱き、さらに<尿もれは加齢によるものだから、だんだん悪くなっていくと思う>や<歳を重ねるということは、その人をだんだんとその死に直結させるような話になってくると思うんですね>という語りから、《尿もれ現象をきっかけに老いや死をイメージさせる不安》な思いが抽出された。

6)【尿もれ対処製品は、つけ心地、見た目が悪く嫌だ】

ここは 16 のコード、1 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ対処製品に対して、<はくパンツは、トランクス型なんですけど、やっぱりフィット感が違いますね、あまりよくない><なんとなく、あの、気持ち悪いか、なんか、今ひとつ、ちょっと違うかな・・て思って>など否定的な思いがあり、《尿とりパッドなどの対処製品は、できれば使いたくない》思いが抽出された。

7)【尿もれ対処製品を使うことで安心できる】

ここは 46 のコード、4 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ対処製品に対して、<パッドやパンツがあると安心して出かけられる>と、《尿もれ対処製品があると安心》する思いを抱き、<パッドは、普通のパンツみたいに洗濯しなくていいから楽ちんだ>と《尿もれ対処製品は便利だ》と対処製品に対する肯定的な思いが明らかになった。また対象者は<車の中に使い捨て尿器を置いてあるので安心です>と《尿もれ現象に対しての備えや工夫が必要と感じている》ことから、予め、対処製品を準備しておくことで安心する思いを抱いていた。さらに対象者の中には、<（頻繁に濡れた）パンツを替えるのが面倒くさい、面倒くさい、それでパッドになったわけだ>対処製品を使用することで、頻回に下着を替える煩わしさがなくなることから、《尿もれ対処製品を使うことに抵抗はない》と感じる思いが抽出された。

8)【尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい】

ここは、47 のコード、2 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象に対して、<行きたくなくても行くようにしようと思っています><（安心のために）予め、洗い物をする前にトイレに行くようにしている>など、失敗しないように《早めにトイレに行くなど、自分なりになんとかしよう」と工夫した》ことで尿もれをしないように取り組む姿が窺え、<頻尿の対処法としては、ふくらはぎのむくみを取るためにサポーターをしたり、マッサージをして気をつけている>と自分なりの対処方法で、《尿もれ現象対策に前向きに取り組んでいる》思いが抽出された。

9)【尿もれ現象についての知識や情報がわからないのは不安だ】

ここは 48 のコード、4 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象について、＜最初からそういうパッドやパンツのことを教えてくれたら安心できたのに＞＜尿もれの悩みについて看護師さんが教えてくれたらいいな、と思う＞などの思いから知識がないことで不安を抱き、《尿もれ現象についてアドバイスがほしかった》思いが明らかとなる一方で、＜インターネットがなく、一人で悩んでいたら、もっと内向きになると思います＞＜インターネットは、尿もれや頻尿のことを調べるのに役立つ、安心できる＞と、不安を軽減するために、《自ら尿もれ現象についての知識や情報を得ようと試みた》思いが抽出された。また、＜電話相談しても良くなるものでもないしね＞と《困っているけど相談していない》思いや＜本当に困っていることを親身になって話を聞いてくれる場所があったらいい＞と《相談する相手も場所もない》不安な思いが抽出された。

1 0) 【医療の力で頻尿が改善することに期待する】

ここは 54 のコード、4 のサブカテゴリーで構成された。対象者が抱える尿もれ現象について、＜薬を飲んで、頻尿が良くなったという実感はない＞＜飲んだら頻尿が治るような、夢のような薬があったらいいです＞などの語りから実際には、《薬を飲んでもあまり効果を感じなかった》という落胆した思いが明らかとなった。また、受診時に、＜残尿検査により残尿があることがわかると「やっぱりか」と悲しくなる＞＜昔のように（尿の）切れがいい感じでは出なく、がっかりする＞など、頻尿をもよおす《残尿があることがわかるとがっかりする》思いが抽出された。さらに、＜最初、おしっこが 2 時間おきくらいに出るので、何か問題があるのかなって思って受診した＞という思いは、尿もれ現象が病気ではないかという不安から、《受診をして不安を軽減したい》思いが明らかとなり、尿もれ現象について、＜頻尿についてのコロナのように研究をしてもらいたい＞＜こういう小さなこと頻尿に対する薬やけど研究が進むといいな＞などの語りから、《頻尿治療の研究が進むといいな》と今後の頻尿治療に期待する前向きな思いが明らかになった。

1 1) 【尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した】

ここは 21 のコード、2 のサブカテゴリーで構成された。対象者は尿もれ現象について、＜自分の不安について相談できるところがあるから安心です＞と相談相手がいることで安堵を感じ、＜みんなに聞いてみるとおしっこのことは、自分だけじゃなかったんだなと思います＞と尿もれ現象が自分だけでないとわかることで、《尿もれ現象に対する悩みや不安を打ちあけられると安心だ》と感じていた。また、尿もれ現象について妻に話した際に、＜「その歳になったから（尿もれやその他の体の不調を）完璧に治すなんて考えない方がいいんじゃない」て言われ、「そうやな」て思って＞と感じたことは、《妻に尿もれ現象のことを理解してもらえていると感じている》と理解してもらえたことで安堵した思いが抽出された。

Ⅶ. 考察

1. 全体像（図 1）

尿もれ現象のある自立高齢男性の思いについて 11 のカテゴリーが抽出され、それらの思いをキーワードに意味内容や関係性について検討し、『尿もれ現象と共存していく思い』『自分なりの対処についての思い』『支援に対する思い』の 3 つに大別して、図式化した。

まず『尿もれ現象と共存していく思い』では、【尿もれ現象に忍従している】【これは歳だから仕方ない】は、加齢による排尿機能の低下から起こる切迫した尿意や頻回に感じる尿意から、【尿もれ現象のために何度もトイレに行くのが辛くて困る】【昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ】という思いが明らかになった。対象者は尿もれ現象は加齢によるもので仕方がないという思いを抱きつつも、尿もれ現象以外にもいくつかの身体機能低下を経験していることから、【尿もれ現象は老いや死を感じさせ不安だ】という死をも容易に連想させることが明らかになった。そして『自分なりの対処についての思い』では、【尿もれ対処製品はつけ心地、見た目が悪くて嫌だ】【尿もれ対処製品を使うことで安心できる】【尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい】と尿もれ現象の知識や対処方法を自分なりに模索し試した結果、尿もれ対処製品に対して肯定的な思いと否定的な思いを抱いていることが明らかとなった。さらに『支援に対する思い』では【尿もれ現象の知識や情報がわからないのは不安だ】【医療の力で頻尿が改善することに期待する】【尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した】という相談場所や共感される思いがあったことで安心できる思いが明らかになったのと同時に、尿もれ現象の知識とその対処方法がわからなかったことで不安な気持ちが明らかとなった。

2. 尿もれ現象と共存していく思い

男性の加齢による身体機能低下からくる排尿機能の変化として、前立腺肥大や過活動膀胱がある。前立腺肥大は、60歳代で6割以上の男性に生じているといわれ、排尿後でも残尿感を訴える男性は多い。また膀胱容量の減少による頻尿や過活動膀胱のため、＜今までだったら、30分、1時間我慢できたおしっこが我慢できなくなって困る＞ことや、＜車に乗っている時にちょびっと漏れてしまうことがあって、こりゃいかん、と思いました＞など、急に尿意をもよおし我慢できずに尿もれ現象にいたることもある。さらに過活動膀胱の原因となる非神経因性膀胱は、加齢による前立腺肥大や筋肉の衰えが要因となっている。加えて、前立腺肥大、膀胱容量の減少から尿がすっきり出ないことで、＜頻尿であることが一番苦痛で困っている＞、＜我慢していると出てしまい、ぱっと見たらおしっこでズボンが濡れていて辛い＞などの現象が引き起こされると言われている。本研究の対象者にも同様の尿もれ現象は随伴していると考える。

1) 尿もれ現象は仕方がない

今回、尿もれ現象を抱えながら日常生活をなんとかやり過ごすという忍従の思いと、歳だから仕方がないというあきらめの思いが明らかとなった。たとえば、＜今は、そんな逼迫した頻尿が全然ないので、そこまでの心配には至っていない感じ＞という気に病まない気持ちが見てとれた。それと同時に、＜頻尿に悩まされているのにドックでは、特にどこも悪くないと言われている＞、＜尿もれが60代、誰にもあると思ったら、自分だけがすごく恥ずかしいわけではないから前向きでいたいと思う＞など、尿もれ現象は加齢に伴う症状と受容しながら抗えないことととらえ、歳だから仕方ないと甘受する思いを抱えていることがわかった。60歳以上の男性195名を対象に尿もれ現象に関するアンケート調査(2019)をみると、8割の者が何らかの尿トラブルを抱えていることが報告されていた。

前述のとおり、高齢男性の尿もれ現象の原因や症状はさまざまである。特に多い症状は「少しもれる」、「頻尿状態」がそれぞれ約4割を占めていた。対象者は＜おしっこしても、1時間するとまた行こうかなということが時々あって辛い＞との思いを抱いており、この

ような尿もれ現象と日常生活を共存し、そのつど対応しながらやり過ごしていることが窺える。対象者の中には、軽い尿もれ現象を持つ者もあり、その彼らが日常生活で仕方なくやり過ごす、歳だから仕方のないこと、という思いを持っていると推察された。しかし後述するが、尿もれ現象の状況解決を諦めていることとは異なり、自分なりの対処方法にも望みを持つといった気持ちを持ちながら生活していることも推測された。

2)尿もれ現象は辛く、死をも連想させる

一方、尿もれ現象が日常生活に大きく影響し、辛い、嫌だ、最終的には死を連想するなどの思いを抱かせていることもわかった。例えば、＜おしっこをしたいと思ったら5分くらいで出てしまう＞＜頻尿であることが一番苦痛で困っている＞＜寒くなってくると、夜中に何回も起きるのが寒くて嫌です＞などの思いからは、昼夜間わずの尿意、頻尿への不安、苦痛や困難感、睡眠への影響への懸念が窺えた。また、＜車に乗っている時にちょびっと漏れてしまうことがあって、こりゃいかん、と思いました＞＜我慢していると出てしまい、ぱっと見たらおしっこでズボンが濡れていて辛い＞など、尿もれ現象により衣類を汚染するなどの失敗体験は、失望感や落胆する思いにつながる事が明らかとなった。田尻ら（2020）の研究では、「中高年女性は、外出中や仕事中に予期せず忘れた頃に尿失禁が起こり、少量であっても不快感は強い」と報告されており、急な尿意のために思いがけずに尿が出てしまうことへの不快感・困惑感が見受けられた。今回も同様に、頻繁あるいは急な尿意、昼夜間わずの頻尿、尿失禁などは日常生活に影響を与え、女性のみならず男性でも大きな戸惑いを抱かせていることが明らかとなった。さらに、＜先輩とかの訃報が入ってくるんですね、尿もれが年のせいというなら、自分も72であり、いつ死んでもおかしくない年なんですね＞＜尿もれは加齢によるものだから、だんだん悪くなっていくと思うと不安になる＞などから、加齢現象としての症状が死を連想させ、不安を増長させていることも明らかとなった。加齢現象はさまざまな身体機能の低下を出現させ、今回は尿もれ現象という出来事を経験した対象者であったが、その対象者の尿もれ現象だけではなく、いくつかの加齢による身体的機能低下を経験していることが推測され、重複する経験からも加齢・死を容易に連想させたと考えられる。

3. 自分なりの対処についての思い

対象者は尿もれ現象と共存し、諦めの思いを抱きながらもその対処方法に取り組んでいく姿が、＜行きたくなくても行くようにしようと思っています＞＜（安心のために）予め、洗い物をする前にトイレに行くようにしている＞などの語りから明らかとなった。掛屋ら（2008）は、前立腺がん患者の排尿障害負担感が大きい者ほど精神的負担も強く、自尊感情を有意に低下させていることを報告している。また小島（2019）は、軽度尿失禁を有する地域在住高齢者へのインタビューで、尿失禁の対応と相談意向について、6 コアカテゴリをまとめ、そのうち《日常生活の支障》《羞恥心と不安》が含まれていることを示唆した。このように尿失禁への対応については、日常生活での支障を感じ、さらに羞恥心と不安を伴うものであり、誰かに相談する前に何とか自己対処を考えてしまう傾向にあることが推測できた。

そして、対処製品については、＜はくパンツは、トランクス型なんですけど、やっぱりフィット感が違いますね、あまりよくない＞＜格好の悪いものはね、ズボンを通して形のわかるようなものは嫌なので＞などのネガティブな思いが多数聞かれた。From プラネットの尿

もれに関する意識調査(2019)において、尿もれ対処製品を使わない、使用するのをやめた理由としては、「使うのに抵抗がある」「いいものかどうかわからない」などの回答があった。それは、対処製品に関する知識不足や馴染みのなさが使用を躊躇う原因になっていることが考えられた。またパッドやパンツなどの対処製品を装着した際に感じた装着感や周囲からの見た目が気になり、使用を躊躇う原因になっていることも考えられる。そして、
＜なんとなく、あの、気持ち悪いかな、なんか、今ひとつ、ちょっと違うかな・・・と思って＞
＜もう少し薄型のフィットするものであればいいのかな＞
などから、女性が生理用ナプキンを装着するといった慣習とは異なり、対象者はパッドを当てる方法に馴染めず、尿もれ対処製品の使用に戸惑う思いを抱くことにつながったと考える。その一方で、＜パッドやパンツがあると安心して出かけられる＞＜パッドつきパンツは、ちょっともれを吸ってくれるので便利でいい＞という語りから、対処製品の使用を通してパンツを濡らさずに済むことへの安心感が窺える。川口ら（2016）による根治的前立腺全摘除術の患者が排尿障害の改善を実感するまでの経験についての研究で、「おむつ、パッドの使用は、使用に伴う制限や、情けなくなり気分が落ち込むことなど心身ともに生活への影響が大きい。しかし、それらを適切に使用することで生活の中での制限を解決することができ、安心につながっている」と報告している。このように個々に合った適切なパッドなどの使用や対処方法は安心感につながり、QOLが維持されることも推察できる。

4. 支援に対する思い

尿もれ現象に対する支援に対して、支援確保に対する不安と安心の両側面の思いが明らかになった。まず尿もれ支援確保に対する不安として、＜最初からそういうパッドやパンツのことを教えてくれたら、安心できたのに＞＜尿もれの悩みについて看護師さんが教えてくれたらいいな、と思う＞などの語りがあった。尿もれ現象に関連する様々な支援情報の少ない現状が戸惑いとなり、不安な気持ちを増長させることになっていると考えられる。また＜家内には色々な話をしますが、そこまでは話していない＞＜本当に困っていることを親身になって話を聞いてくれる場所があったらいいのに＞などの語りがあった。

西村ら（2015）は、「尿失禁をもつ自立高齢女性の他者との交流に及ぼす負の影響のある要因には、共通して家族や友人など身近な存在にも自分から尿失禁を打ち明けることに抵抗がある」ことを明らかにしていた。このことから自立高齢男性は、尿もれ現象やその対処についての悩みや不安を身近な人にさえ打ち明けられず、他者との交流にも影響を与えていることが推測できる。榎本（2006）は、「老年期における性格の変化として、老年期になると内向性が高まる、あるいは外向性が低下するといった知見が多く示されている」と示唆している。このことから対象者である自立高齢男性は自ら相談場所や支援情報を入手することを困難に感じていることも推察できる。また加齢による視聴覚機能低下や認知機能低下に伴い、新しいものを取り入れ、対応していくことに億劫になっていることも推測できる。そして、これらが理由となり支援確保についても受け身的になる傾向が考えられる。対象者は尿もれ現象について思いを聞いてもらえる場所や対処方法を自ら探索しようと試みる傾向は少ないことが推察でき、必要な支援に結びつきにくいことが考えられる。また、＜最初、おしっこが2時間おきくらいに出るので、何か問題があるのかなって思って受診した＞＜飲んだら頻尿が治るような、夢のような薬があったらいいです＞など、医療の力を頼りに治癒過程を辿りたい思いを持っていることが明らかとなった。40歳以上の

男女 900 名に行った排尿障害に関する意識調査（2007）によると、医療機関に受診した理由については、急に起きる我慢できない尿意、頻尿、尿失禁などの気になる症状は何か病気ではないのか、という不安な思いから受診に至っていることが明らかとなっている。このことから、対象者の尿もれ現象についての認識不足から戸惑いを生じ、さらに相談場所や支援に辿り着けないことでさらに不安を増長させることにつながっていると考えられる。

一方で、身近な人に悩みを打ち明け、＜みんなに聞いてみると、おしっこことは自分だけじゃなかったんだな（よかった）と思います＞＜「その歳になったから（尿もれやその他の体の不調を）完璧に治すなんて考えない方がいいんじゃない」て言われ、「そうやな」て思って（安心した）＞などの語りがあった。六角ら（2022）は、「高齢者は加齢による身体機能低下だけでなく、高齢者を取り巻く人々や社会環境の影響を受けやすい。定年退職によって職や地位を失う、交友関係の縮小などといった社会環境の変化は、高齢者に不安感・孤独感・喪失感などを抱かせることにつながるだろう」と述べている。そのようなことから、高齢者は相談場所や相談相手が身近にいないことで孤立感を感じる事が推察できる。そのために自分と同様の経験をしている他人の存在や、共感を得ることで安堵を感じ、身近な存在である妻が尿もれ現象に対して、＜妻は尿もれに関しては、歳だから仕方ないと受け止めてくれている＞と感じることで安心感を得ているのではないかと推察できる。

5. 本研究を踏まえての CNS としての今後の課題

本研究において対象者の語りから、自立高齢男性の排尿ケアへの支援方法として相談窓口、相談場所の確保に努めていく必要があると考える。そこで、自施設で尿もれ現象のある自立高齢男性が相談できる場所、相談窓口を作っていけるよう取り組んでいきたい。それは、排泄の悩みや健康についての不安、毎日の暮らしの中で気になることなど、誰でも気軽に相談できる場所を作っていく必要があると考える。そして必要時には適切な支援を受けられるよう多職種との調整を行っていきたい。また地域で働く老人看護専門看護師（以下 GCNS とする）として、地域にある様々な資源である多職種と連携し協働していくよう努めていく。たとえば、地域で暮らす高齢者を支援するために地域包括支援センターの多職種と話し合う機会の調整を行い、相談窓口の設定や相談先の案内を行えるよう連携調整を検討していく必要がある。しかし、このような排泄の悩みは羞恥心を伴いプライバシーに関わる内容であることから、本人のプライバシーが保護できるよう努めていくことが必需である。さらに、今後も GCNS として本研究を続けていく。それは、地域で暮らす高齢者の代弁者となることで高齢者に対する排泄支援の施策を変えていく一歩になるのではないかと考える。加えて GCNS が行う高度看護実践としては、自立高齢男性の頻尿への対処法として、体内の血液循環の仕組みを理解した上で、活動と休息のバランスをうまく日々の生活の中に取り込み、セルフケア能力が維持できる働きかけを行うことも責務と考える。さらに、軽い尿もれ現象の対処法として、自身で可能な徒手的方法であるミルキングなど具体的な手法を伝えることで、自立高齢男性が抱く不安軽減の助けとなるよう努めていくことが必要である。

VIII. 結論

本研究は、尿もれのある自立高齢男性 7 名にインタビューした内容を、質的帰納的に分

析し、尿もれ現象のある自立高齢男性の思いについて 11 のカテゴリーが抽出された。【尿もれ現象に忍従している】【これは歳だから仕方ない】は、加齢による排尿機能の低下から起こる切迫した尿意や頻回に感じる尿意から、【尿もれ現象のために何度もトイレに行くのが辛くて困る】【昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ】という思いが明らかになった。

対象者は、尿もれ現象は加齢によるもので仕方がないという思いを抱きつつも、尿もれ現象以外にもいくつかの身体機能低下を経験していることから、【尿もれ現象は老いや死を感じさせ不安だ】という死をも容易に連想させることが明らかになった。そして、【尿もれ対処製品はつけ心地、見た目が悪くて嫌だ】【尿もれ対処製品を使うことで安心できる】【尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい】と尿もれ現象の知識や対処方法を自分なりに模索し試した結果、尿もれ対処製品に対して肯定的な思いと否定的な思いを抱いていることが明らかとなった。【尿もれ現象の知識や情報がわからないのは不安だ】【医療の力で頻尿が改善することに期待する】【尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した】という尿もれ現象の知識とその対処方法がわからなかったことで不安な気持ちを抱いたのと同時に、相談場所や共感される思いがあったことで安心できる思いが明らかになった。

そしてインタビューを通してパッドなどの対処製品の使用についての思いには、男性独自のものがあり、慣例としての対処製品などの使用経験のないことが戸惑いや躊躇いとなり、不安を抱かせていることが明らかとなった。

IX. 研究の限界と今後の課題

本研究の対象者は、尿もれ現象のある自立高齢男性 7 名で、半構造化インタビューを行いその思いを明らかにした。パッドなどの対処製品の使用についての思いには、男性独自のものが見られた結果となったことから、対象者の思いの把握や支援方法には役立つと考えられ、今後の排尿ケアへの支援方法を探索したことは意義があった。しかし、尿もれ現象という羞恥心を伴う思いへの介入であり、対象者の真の思いが聞けていたとは言い難い。

しかし、本研究から得られた自立高齢男性の尿もれ現象への思いを真摯に受け止め、今後は、地域、年代をさらに広げていく必要があるのではないかと考える。今後の自立高齢男性の排尿ケアに活かし、適切な対処方法の提示や支援場所に辿り着けるよう支援体制作りに尽力していきたい

X. 謝辞

本研究に協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

研究協力にご快諾をいただき、対象者様をご紹介いただきました研究施設の施設長様、並びに研究にご協力いただきました対象者の皆様に深くお礼申し上げます。そして、研究中は終始熱心かつ丁寧にご指導くださいました、在宅看護学教授六角僚子先生に深謝いたします。また、大学院の方々には多くの議論をしながら精神的にも支えていただきました。加えて、先輩・同期の皆様、職場の上司や同僚、仲間、家族に心より感謝申し上げます。

【文献】

- 旭化成ファーマ株式会社 <https://www.asahikasei-pharma.co.jp/health/prostate/symptom.html> (参照 2021-6-8)
- 榎本博明 (2006) : 高齢者の心理、季刊家計経済研究、2006、SPRING No. 70
- グレッグ美鈴、麻原きよみ他 (2016) : よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護エキスパートナーズをめざして (第2版)、P64-88、医歯薬出版株式会社、東京
- 平松巳佳、中田由香、赤木理恵 (2009) : 前立腺全摘除術を受け退院後も尿失禁が続く患者の QOL の実態、(504) 泌尿器ケア、vol. 14 no. 5
- 堀内ふき、大淵律子、諏訪さゆり (2015) : 老年看護学①高齢者の健康と障害、4 (3)、219-220
- 堀之内若名、伊藤靖代、高田大輔 (2019) : 紙おむつを教材に用いた高齢者排泄ケアに関する学び—排泄ケアを専門とする企業看護師との連携から—、帝京科学大学紀要 Vol. 15、91-99
- 泉キヨ子、小山幸代 (2015) : 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術、メジカルフレンド社、第3版、P102
- 一般社団法人 日本衛生材料工業連合会
<https://www.jhpia.or.jp/product/diaper/baby/index.html> (参照 2021-6-1)
- 駒形和典、仲上豪二郎、玉井奈緒 (2013) : パウチを用いた新しい男性用尿失禁ケア用具の開発と評価、日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 J. Jpn. WOCM. vol. 17、11-22
- 小島みさお (2019) : 地域在住高齢者の軽度尿失禁の実態と相談意向に関する調査研究、国際医療福祉大学審査学位論文 (博士)
- 西村和美、荒木田美香子 (2015) : 尿失禁が他者との交流に及ぼす影響と対処行動—自立高齢女性を対象に潜在的なニーズにも着目して—、日本看護研究学会雑誌 Vol. 38、No. 4
- 日本泌尿器学会 <https://www.urol.or.jp/public/symptom/04.html> (参照 2021-6-7)
- 中澤真弥 (2018) : 看護の現場ですぐに役立つ排泄ケアのキホン、秀和システム、1 (1)
- 鈴木基文 (2019) : 虚弱高齢者の尿失禁・排尿障害対策、泌尿器外科 32 (5)、461-465
- 鈴木久美子、宮崎美砂子、石丸美奈 (2021) : 地域包括支援センター看護職がとらえた認知症高齢者の家族介護にかかわる課題とそれに対する支援方法、千葉看会誌 VOL. 26、No. 2
- 総務省「2021 (令和3) 年『通信利用動向調査報告書世帯編』統計表一覧」. 2021 (令和3)
- 田村里佳、内堀真弓、本田彰子、山崎智子 (2019) : 未成年の子どもをもちがんに罹患した親の子育てにおける経験に関する研究の動向と課題、家族看護学研究、25 (1)
- 田尻后子、曾我部美恵子、岩崎朱美、四方早子、丸山仁司 : 中高年女性において尿失禁が日常生活の QOL に与える影響、理学療法科学 35 (3)、315-319
- 田尻后子、曾我部美恵子、岩崎朱美他 (2019) : 尿失禁を体験した中高年女性の意識調査、理学療法科学 34 (4)、511-515
- 横田香世、南村二美代、光木幸子ら (2021) : 糖尿病とがんを併せ持つ患者の療養に対する思い大阪府立大学看護学雑誌、27 (1)

表 1 研究対象者の概要

対象者7名、平均年齢71.4歳

	年齢	いつから（約）	診断有無	内服有無	同居家族	相談先
A	82	0.5年前	なし	なし	なし	なし
B	66	2.3年前	あり	あり	妻	妻、友人
C	67	2年前	なし	あり	妻	妻、友人
D	72	8年前	あり	なし	妻	妻、医師
E	72	2年前	なし	なし	妻	妻
F	69	1.2年前	あり	あり	妻	妻
G	72	10年前	あり	あり	妻	妻、息子

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー			
	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
1	今は、なんとか間に合うようにすることができているので、インターネットでそういう情報（頻尿）について調べてみようとは、まだ思わない		
2	（尿もれは）ゴルフの時は、大丈夫なので安心		
3	尿もれに関して、今は支障はない		
4	尿もれや頻尿があることで、出ることを躊躇ったり、出かけるのを止めることはない		
5	今はもう先つちよまで来てるけど、我慢できている感じだからいい		
6	私のは、尿もれという部類には入らないと思う		
7	尿もれで日常生活に不自由をきたしていることはない		
8	近いけど、朝起きてトイレ行ったらお昼の時もうトイレ行かなくていいから平気	尿もれ現象はあるが、今はなんとか大丈夫	
9	今は、そんな逼迫した頻尿が全然ないので、そこまでの心配には至っていない感じ		
10	尿もれがあるから、外出するのをやめようというのではなく、外出するためにどうしよう、考えた方が楽しいですからそう考える		尿もれ現象に忍従している
11	そうですね、今は大丈夫だけど、この先、必要になったら試してみようとは思っています		
12	尿もれに対して、お風呂の時は、特に問題ないです		
13	尿もれに対して、そのような製品を使うまではない		
14	尿もれに対して、今のところ、尿とり対処製品を使うほどは困っていない		
15	友達はトイレに行って手を洗ったらまた、したくなるほどだったけど自分はそんなことはない		
1	その都度トイレに行くから、生活に支障をきたしていることは、今はない		
2	頻尿があることで日常生活で活動を諦めるようなことはない	頻尿に対して何度もトイレに行くことで対応している	
3	前もってトイレに行くことで、運動することに支障をきたすことはないのですよ		
4	対応できているから頻尿があるからと言って、何か我慢していることはないです		
1	尿の問題だけでなく、健康管理が大事だと思って健康診断してもらっています		
2	病気のことが怖いから、安心したいから人間ドックで全てやっしまおうと思っています		
3	おしっこだけでなく、歳のせいかな、ちょっと腰が痛いのですが、なるべく体を動かすように心がけているんです	尿もれ現象と前向きに向き合いながら健康に暮らしていきたい	
4	尿もれのことがあって心配なので、前立腺検査はずっとしているから、だから安心		
5	このような尿のトラブルがあってもなるべく、女房に美味しいものを作ってあげたいし、一緒に食べにいきたい		
6	尿トラブルがあっても、孫が結婚するくらいまでは生きとりたいたいと思っています		
1	心筋梗塞を患い幸い命生かしてもらったと思っているので、尿もれなんて笑いのネタにしている		
2	尿もれなどのちょっとした話は年寄りの参考になるな		
3	インターネットで調べたらわかりそうなもんやけど、歳やからそんなもんなんかと思ってた		
4	尿もれなんて大したことない病気だと、楽観的に考えるようにしている		これは歳だから仕方ない
5	尿もれに関して、恥ずかしい話だけど、笑い話にする		
6	このような尿のトラブルがあっても、カラオケで楽しんだり、トイレ付きのバスで旅行に行ったりしてみようと思っています		
7	尿もれや尿が近いことについては、俺は3回、俺は4回、と笑い話にする	尿もれ現象は、もう笑い話にする	
8	でもまあ、これも（尿もれ、頻尿）加齢によるもので仕方ないですものね		
9	年齢的なこともあり、排尿に関するトラブルを完璧に言うのは難しいかなと思う		
10	尿もれに関しては、もう年だから笑い話でいける		
11	尿もれや尿が近いことは、大きな病気ではなく、みんなにあるようなものとして話しています		
12	尿もれが60代、誰にもあると思ったら、自分だけがすごく恥ずかしいわけではないから前向きでいたいと思う		
13	尿もれに関して、ちょっと困ることはあるけれど、自分と同じような人がいて安心した		
1	入浴時、急に尿意をもよおすことが多い		
2	昔、職場の人がシャワーした時におしっこがしたくなってくるて話があり同じと思った		
3	入浴前後に尿意をもよおすことが多く、間隔も短く困る		
4	入浴後に尿意があった時に用を足すとスッキリする		
5	今までだったら、30分、1時間我慢できたおしっこが我慢できなくなってるかな		
6	何かしている時にトイレに行かなければならないのは困ります	頻繁な尿意への不安	
7	急に尿意をもよおして我慢できなくなることがあり不安になる		
8	昼間は、急に尿意をもよおすことが何回もあって困る		
9	おしっこしたいと思ったら5分くらいで出てしまうのが辛いです		
10	同僚とはゴルフに行った時に話したら珍しいと言われて不安になった		

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー		
コード	サブカテゴリー	カテゴリー
11 おしっこがしたいと思ってからもれるまでの時間が短くて困るんです	1 寒い時に、遊園地とかを歩いていると、尿意をもよおす回数は多くて困る	トイレに行く回数が多くて困る
	2 おしっこをしても、1時間するとまた行こうかなということがあって辛い	
	3 仕事中はそんなにトイレに行ったことはなかったのに、今は多くて辛い	
	4 1回の尿量が少ない感じはしないが頻度が多い	
	5 頻尿があることで、仕事中でもショッピングに行ってもトイレに行く回数が増えて不便だ	
	6 現役で仕事をしている時は、頻尿のことはそんなに問題ではなかった	
	7 トイレに行く回数が増えていることは生活への支障だ	
	8 お客さんと話している時にトイレに行かなければならないと困る	
	9 私は、狭心症もあり水をたくさん飲まないといけない、でも飲んだらトイレに行きたくなり困る	
	10 仕事中は、トイレにはいけなくて辛かった	
	11 仕事をしている時は、そんなに尿のことに対する不安はなかった	
	12 コンビニでトイレを借りる時は、恥ずかしいから物を買うようにしている	
	13 たくさん水を飲まないといけなし、飲むとまたトイレに行きたくなることがあって、そのバランスが難しく悩む	
	14 2年くらい前から尿の回数が多くなった	
	15 頻尿に悩まされているのにドックでは、特にどこも悪くないと言われている	
	16 尿量は、普通量でるのに回数が多いです	
	17 頻尿であることが一番苦痛で困っている	
18 頻尿については60歳（現在65歳）を過ぎてから頻度が多くなった気がする	1 冬の寒い時期に寝床から出るのは寒いので辛くて嫌だ	尿もれ現象で何度もトイレにいくのが辛くて困る
	2 寒くなってくると、夜中に何回も起きるのが寒くて嫌です	
	3 あまり早く寝ると起きる回数が増えるので、10時か11時に寝るようにしている	
	4 血圧が急に上がるといけないので靴下履いたり、上着着たりするけど、それでも寒いから嫌です	
	5 夜中にトイレに2.3回起きると嫌になってきます	
	6 夜中に3回、多い時は4回トイレに起きる時があるけど、友達に聞いたらそんな人はざらだった	
	7 夜中の頻尿が嫌なので、夜は水を飲むのを控えています	
	8 寝入ってから1.2回目は、だいたい1時間くらいで尿意をもよおします	
	9 10時か11時に寝て、6時か7時に起きるまでにだいたい2.3回起きる事が多いです	
	10 夜中に起きるのは40年くらい前からだけど、ここ最近は辛い	
	11 夜間の排尿の回数は多いよ、2時間おきくらいかな	
	12 夜間頻尿が治ったらいいな、と思う	
	13 夜中にトイレに行くのはせめて1〜2回で済むような薬があるといいな	
	14 一番嫌なのは夜間頻尿	
	15 トイレに行く回数が減ってくれたらいいな	
	16 前立腺肥大があるからか、薬を飲んでいるからか、夜間のおしっこの回数は多く辛い	
	17 70歳前くらいから、やっぱり、その一晚持たないんですね、夜中に1回ないしは2回、それが自分としては不便	
19 夜、寝ている時に2.3回おしっこがしたくて起きるのが辛くて困る	1 最近、一度、目覚めると寝つきが悪くなり、色々考えてしまったりする事があり辛い	睡眠を妨げられることが辛い
	2 頻尿治療薬を飲んでいても、朝までぐっすり眠れることは少ないです	
	3 夜間頻尿は、身体の調子や睡眠の質を落とすから心配	
	4 一度、夜間にトイレに起きるとその後、眠れなくて睡眠の質が落ちるのではないかとという不安がある	
	5 2時間ごとに起きることでそばで寝ている人に悪いと思う	
	6 夜、2.3回起きることで、睡眠不足のことが不安です	
20 昔はそんなに苦痛にならなかったけど、今は、2時間ごとに起きるとか、迷惑します	1 その、もらったことが1回あったんで、もうこれはあかんで思いました	パンツを濡らしてがっかりした
	2 我慢して、我慢して玄関を開けた時に出てしまったことが1回あった	
	3 一度、夜中に寝ぼけてトイレに行った時にもらったことがありました	
	4 夜中に一度、パンツもパジャマも濡れた時があります	

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー		
コード	サブカテゴリー	カテゴリー
5 でもね、1回だけ間に合わなくてもらしたことがあります		
6 車に乗っている時にちょびっと漏れてしまうことがあって、こりゃいかん、と思いました		
1 多分あの尿の出るスピードやったら、もう尿道までできていて間に合わなくて困る		
2 (トイレに行きたいと思ったら)間に合わない時もある		
3 最近ね、紙オムツはあててないですが、トイレに行こうと思った時に、ちょろっと出てしまう時があります		
4 尿のことは何かに集中している時はいいけど、何も考えずにぼーっとしていると急にしたくなる		
5 水のものを見ると、おしっこがしたなる		
6 おしっこしたいな、で頭の隅に思うと、もうしたくなって仕方ない、我慢できない		
7 何かに集中している時はおしっこが近いことは気にならず気が紛れるのですかね		
8 トイレやったり、水を出して洗い物をしていると、「あっ、おしっこしたいな」でなりますね		
9 本当思うともう無理で、あの、出る可能性もあるんですね		
10 うん、今よりもひどくなったらオムツするかな		
11 尿のことは、なるべく気にしないようにしている(思うと急に行きたくなる)		
12 尿が出てしまうっていう部分では、手を洗うといきなりもうそこまで来るとような感じ		
13 例えば洗い物をしとって出てくることがある	自分の意に反して、ちょろっと出てしまうことは困る	
14 尿をもよおすのは、その時、洗い物や水を触った時だけですが困る		
15 水を使ったりしたらもう(トイレに行きたくなってしまう)アウト		
16 出てきてもそれはもう待ったなしになるぐらい早くて困る		
17 水を使うと、もう急に「あっ、おしっこに行きたい」となって困る		
18 パンツはお風呂以外でも2回くらいは途中で替えるのが不便		昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ
19 まあ、尿がちょろっと出てくるのは困る		
20 家にいてもズボンが濡れる時がある、もうがっかり		
21 我慢していると出てしまい、ぱっと見たらおしっこでズボンが濡れていて辛い		
22 ズボンが濡れていては、恥ずかしくて人前には行けない		
23 あっ、出ると思ってから、出るまでが早くて困ります		
24 尿がもれでる量は、ほんの少しですが困る		
25 1時間でも30分でも我慢できたんですけど、この頃はもう本当思うともう無理で困る、嫌だ		
26 水道をジャーと出したり灯油を入れたりしていると、急にもよおしてくるんですね、困ります		
1 バス旅行については、もうやめておこうと思っています		
2 トイレのことを考えないようにしています。考えてしまうと出そうになって、それは不便を感じているんですけどね		
3 ちびったような独特な臭いがしてくるのが嫌だ		
4 尿もれや頻尿というのは、毎日のことなので嫌です		
5 出かける時は、常にトイレのことを考えているのが辛い		
6 自分が60代になって尿もれを経験するというのは、あまり考えていなかった		
7 昔は、おしっこが近いことで苦労はしてなかったですね		
8 尿れや頻尿があることで、外に出ることが億劫になっています	日常的に起こる尿もれ現象は嫌だ	
9 尿もれの無い健康な方が羨ましいと思う		
10 もっと老いてくと、もう溜まるどころがなくなってくるのではないかと心配		
11 このような症状が現れたのは、2,3年のことかな		
12 昔は我慢できたのに、どうして今は、我慢ができなくなったのかな、と思う		
13 昔は、30分や1時間は我慢できたのに、今は、したいと思ったら我慢できなくて辛い		
14 尿もれがあると、常にぬれていないか、と気にしなくてはならなくていやだ		
15 ズボンを替えるのは大変です		
16 加齢によるものだから、だんだん悪くなっていくと思うと不安です		
1 トイレに行った際に命に何かあったら、誰も気づかなくて不安になる		
2 インターネットでそういう頻尿について調べてみようとは思わない、というより怖い		
3 歳を重ねるということは、その人をだんだんとその死に直結させるような話になってくと思うんですね		
4 なんでなんやろなあ、(尿もれのこと)心配した方がええんやろうけど知ることが怖い		
5 うーん、年から考えると、この先、もうあと10年くらいのことかなと思う		

表2 コード、サブカテゴリ、カテゴリ			
	コード	サブカテゴリ	カテゴリ
6	先輩とかの計報が入ってくるんですね、尿もれが年のせいというなら、自分も72であり、いつ死んでもおかしくない年なんですね		
7	私、ドックで前立腺の検査を受けているのですが、ドックでは異常はないと言われていまず、でも（おしっこが近いのは）なぜだろうと心配になる	尿もれ現象をきっかけに老いや死をイメージさせる不安	老いや死を感じさせ不安だ
8	尿もれは加齢によるものだから、だんだん悪くなっていくと思うと不安になる		
9	頻尿も含め、全身のこと、全てのことについて知ることが怖い、ていうか		
10	健康で長生きしたいと思いますが、本当に健康で長生きできるかどうかはわからないから不安		
11	調べてなんか病気があったら心配だから調べるのは怖い		
12	手を洗うという場面は限られとるしてもこれが変な病気やったら、気になるけど調べたくない		
13	完璧というのは無理だと思うので、そこまでは期待していないですが、でもまだもう少し生きていたいかな		
1	尿もれが頻繁になってきたら使ってみようと思うと思います		
2	家に帰って汚れたズボンとパンツを替えるから使わなくていい		
3	パッドは前はいいけど後ろがずれてきて困る		
4	パッドは小さくて便利やったけど、尿を吸収すると臭いがでてよくない		
5	パッドはズレてくるから、長いのはよくない、モサモサしてつけ心地が悪い		
6	パッドやパンツなどを使用することで動きにくいのは嫌です		
7	格好の悪いものはね、ズボンを通して形がわかるようなものは嫌なので		
8	水分を吸ってもらう部分のゴワゴワだったり、分厚さが、もうちょっととなんかならんのかなと思いますもんね	尿とりパッドなどの対処製品	尿もれ対処製品は、つけ心地、見た目が悪くて嫌だ
9	なんとなく、あの、気持ち悪いかな、なんか、今ひとつ、ちょっと違うかな・・・で思ってた		
10	男性用の上から被せようようなのがあれば希望したい		
11	もう少し薄型のフィットするものであればいいのかな		
12	はくパンツは、トランクス型なんですけど、やっぱりフィット感が違いますね、あまりよくない		
13	元同僚はバンパースのようなのを履いている人もいるんですが、自分は今のところはない		
14	見た目は普通の男性用のパンツのようなのですが、一部分だけ吸収できるようなものを買ったことあるんですよ、でも、はいていない		
15	でも、そのオムツをすること自体に抵抗があるかな		
16	おむつは、おしっこをすると臭うからいやで交換する		
1	おむつをはいていると暖かいし、柔らかいし、気持ちいい		
2	リハビリパンツは、はき心地もきゅっとなって気持ちいい		
3	男性用のパットはぶらぶらしやんし、案外つけ心地は気持ちよかった		
4	外出時にはおむつをはいておくとう安心できる		
5	男性用パッドには1回くらいのおしっこは吸収すると書いてあったから安心と思って使った	尿もれ対処製品があると安心だ	
6	尿もれに関して、今後、ちょっともれパンツはあった方が安心になると思う		
7	パッドやパンツがあると安心して出かけられる		
8	尿もれに関して、ちょっともれパンツは安心材料になる		
9	おむつをはいていることは、もしもの時の安心になる		
10	パッドやパンツがあったら、もしもの時、ザッと出ても安心		
1	パッドは、普通のパンツみたいに洗濯しなくていいから楽ちんだ		
2	おむつは処理する方法も特に問題ないからいい		
3	おむつは夏でも蒸れないし、薄いから暑くない		
4	おむつは、ちょっとちびってしまう時に便利でよい		
5	2回分のパッドは履いても違和感はないし、履き心地は悪くない		
6	パッドつきパンツは、ちょっともれを吸ってくれるので便利でいい		
7	尿もれに関してパッドを使うのは外出するときだけ使用する	尿もれ対処製品は便利だ	
8	尿もれをするとパンツが濡れたままになるけれど、リハパンはそうならなくていい		
9	パッドつきパンツは、サポート力があるので陰茎を支えてくれるので心地いい		
10	分別も必要ないし、燃えるゴミに出したらなんの問題もない		
11	パッドを使うまでは、しょつ中パンツを替えないといけないのが面倒だった		
12	その時に紙おむつというか着替えの下着を持てればなんとかなるから便利だ		
13	パッドつきパンツは、ちょっともれても前は濡れないのでわからないから一番いいやろう		
1	尿もれがあることで、わからないように黒っぽいズボンにしている	尿もれ対処製品を使うことで安心できる	
2	尿もれがあることが知られるから、グレーのズボンは目立つからはかないようにしている		

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー		
コード	サブカテゴリー	カテゴリー
3 小さいパッドがあるらしく、それも使うことが必要かもしれない		
4 あると安心なので、尿もれに備えて、使い捨て尿器はネットで買って持っている		
5 使い捨て尿器は、幸い、まだ一度も使ったことがない		
6 尿もれが思わぬところであるんやったら、尿とりパッドを使うかもしれない		
7 車の中に使い捨て尿器を置いてあるので安心です		
8 使い捨て尿器は運転中で、近くにトイレがない時のために買った		
9 安心のために車の中にパンツの替えを置いています	尿もれ現象に対しての備えや工夫が必要と感じている	
10 尿もれに備えて、外出時には、パッドつきパンツを履いています		
11 (おしっこが) 間に合わない時のために、車に毎日尿瓶が積んである		
12 尿もれを少しだけとってくれような男性用の尿とりパッドのようなものを用意したが使用したことはないです		
13 もしもの時ように下着の着替えを持っているのは正解だと思います		
14 車には、尿瓶のようなもの、それに変わるものを積んでおかないといかんと思っています		
15 車で移動している時に、大きなペットボトルみたいなものを乗せておかないと心配です		
16 外出する時は、薄型のおむつを履いている		
17 もしものために、通販についてくる冊子でみて買いました		
1 (頻繁に濡れた) パンツを替えるのが面倒くさい、面倒くさい、それでパッドになったわけで楽でいい		
2 毎日、パッドつきパンツをはいています		
3 尿もれに関して家にいる時は、おむつを使用している	尿もれ対処製品を使うことに抵抗はない	
4 尿もれでどうしようかな、と思っている時に、たまたま薬局でパッドを見つけた		
5 男性用のパッド、小さいのではダメで男女兼用のはいています		
6 急な尿意には尿瓶も使ったことがある		
1 おしっこがしたくなくてもなるべく辛抱して、溜めてから行こうと、思っていたんです		
2 散歩に行く時も必ず行く前にトイレに行っているんですね、途中でしなくては困りますので		
3 外にいる時だったら困るのでコンビニとかに駆け込みます		
4 まあ、大丈夫かな、と、今のところはパンツの着替えとかは持ってないです		
5 途中でしとなると困りますので、したくなくても予めトイレに行きます		
6 尿もれがあっても、ある程度は対処できることがあると考えています		
7 何かイベントがあると、必ず前には必ずトイレに行つといて、なるべくおしっこのことは考えないようにしているんです		
8 行きたくなくても行くようにしようと思っています		
9 ちょろっと出てしまう時はね、もう走ってトイレにいきます		
10 もうこれはあかんで思って、どんな時にも時間がかかるような時には、予め行くようにしようって思っています		
11 何かをする時には予め、前もってトイレに行っておくようにしています		
12 自分で運転して行った方がどこでも立ち寄れると思えるから安心です		
13 尿もれは、その対処が第一やと思う		
14 自分の場合はわかっとなので、今の状態やったら、間に合わなくてもほんとにちょっとだから大丈夫		
15 出かける時に、要する時間からトイレの場所や時間を決めています	早めにトイレに行くなど、自分なりになんとかしようと工夫した	
16 (安心のために) 予め、洗い物をする前にトイレに行くようにしている		
17 出かける時は、ガソリンスタンドでトイレによることにしています		
18 洗い物をしていると、あっ、トイレに行きたい、なるけどトイレに行ったら対応できている		
19 車で遠出しても2、3時間は平気、普通にスーパーとかでトイレに寄る		
20 洗い物をしてても、一度、トイレに行っておくとしばらくは大丈夫なんです		
21 家にいる時は、予め、トイレに行っておこうとなる		
22 水を使うときには、予め、トイレに行くことにしています		
23 一度、トイレに行っておくと、洗い物の続きはできます		
24 洗い物をする前にトイレに行っておいたら大丈夫	尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい	
25 最近出かける時は、トイレに立ち寄る場所は決めている		
26 今はもう予め水使うならトイレへいくようにしています		
27 出かける時は、コンビニにトイレのためによることにしている		
28 絞り出す感じでおしっこをすると、朝まで1回起きるだけでトイレに行かなくてすむ		

表2 コード、サブカテゴリ、カテゴリ		
コード	サブカテゴリ	カテゴリ
29 頻尿があることで失敗しないように早めにトイレに行こうと思っています		
30 妻に言われて、尿意がおこっても1.2回は我慢をすることがある		
31 水分はいつべんに飲まずに少しずつ飲むようにしています		
1 尿もれに対する工夫としての訓練は、1日4. 5回やっている		
2 尿もれに対する訓練は、簡単なことで誰からもわからないからいい		
3 頻尿の対処法として妻と一緒にウォーキングをしています		
4 頻尿の対処法として、むくみを取るために、ふくらはぎのマッサージをしている		
5 頻尿への対処法として妻とは、一緒に運動をしています		
6 尿もれに対するこの訓練は、他の人から聞いたのと、インターネットで知りました		
7 頻尿の対処法としては、ふくらはぎのむくみを取るためにサポーターをしたり、マッサージをして気をつけている		
8 身体のことは予防が大切だと思っています	尿もれ現象対策に前向きに取り組んでいる	
9 尿もれに対する工夫は、少しでも効果があつたらいいなと思ってやり始めた		
10 訓練は、1、2月前からやり始めたらちょっと漏れが少なくなったような気がする		
11 頻尿の対処法として、運動をして足の裏を刺激したりしている		
12 運動をすることで頻尿のことは気にならない		
13 頻尿の対処法として、風呂から出たらソックスみたいなをふくらはぎにつけている		
14 料理のことを考えたり、体を動かしている時は、おしっこことは気にならないというか		
15 頻尿への対処法としてふくらはぎをマッサージをすることは共感してもらっている		
16 頻尿に対しての対処法は、意識して行うようにしている		
1 尿もれの悩みについて看護師さんが教えてくれたらいいと思う		
2 最初からそういうパッドやパンツのことを教えてくれたら、安心できたのに		
3 病院はそういうこと、尿もれ対策やパッドやパンツの紹介は教えてはくれないよ		
4 女の人のパッドみたいなん「あんなに吸うんかい？」と思う時がある		
5 男性用の尿とりパッドが売っているということは知らなかった	尿もれ現象についてアドバイスがほしかった	
6 相談する病院ですと泌尿器科ですよね、津では〇〇？どこ？		
7 相談できる場所を今のうちに確保しておかないといけませんね		
8 6回分のおしっこ吸収パッドがあることを知って「一晩中分？」で驚いた		
9 パッドみたいなものをこれからも提供してもらいたいと思うな		
1 最初の頃は、わからなくて、パッド付きのパンツを買うのにネットで探しました		
2 1回100円とか200円とかそんなもんやろ、安いわな、パッドならもっと安い		
3 インターネットで調べたら、男性用の尿とりパッドもあるらしいです		
4 今は、パッドつきパンツは、お店で売っています		
5 その場になって、尿もれするようになって、知識がなさすぎることに気づく		
6 ちょっともれがあるからパッドを当てるか、ていうなら、パンツになっているおむつのものの方がいいかな		
7 インターネットがなく、一人で悩んでいたら、もっと内向きになると思います		
8 インターネットで調べるとパッドのことや尿もれや頻尿の訓練のことが出てくる		
9 インターネット情報では、60歳くらいを超えてくると結構な数の人が漏れていますよ		
10 インターネットの情報では、60歳を過ぎたら尿もれ、頻尿、残尿感、3兄弟みたいなものが現れる		
11 最初は、インターネット上にそんなものがあると思っていなかった、それに気づいていなかった	自ら尿もれ現象についての知識や情報を得ようと試みた	
12 最初、男性用パッドのことは知らなかった		
13 当てるなら尿とりパッドより、おむつの方が安心かな、と思いますね		
14 24枚入りのパンツ1枚100円として、1ヶ月2400円だったら安いよ		
15 尿とりパッドの吸収量は、10CCとか100CCまでとか色々あるけど、それは女性用		尿もれ現象についての知識や情報がわからないのは不安だ
16 インターネットで調べてみると、色々あった		
17 尿もれパッドのこと、尿もれについてインターネット情報は、とても役に立っている		
18 尿もれに関して、自分自身で勉強がしていなかったな		
19 インターネットで尿もれをしている人を把握したら、頻尿はたくさんいて笑話です		
20 そういう尿もれ知識がないから、どうしよかな、と思っていた		
21 インターネットは、尿もれや頻尿のことを調べるのに役立つ、安心できる		

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー			
コード	サブカテゴリー	カテゴリー	
22 尿もれは、明らかに精神的なものやと思う			
23 洗いや水をさわった時だけで、夜とかは大丈夫なことが、心因的な感じがする			
24 やっぱり、もれるのは膀胱近くの筋肉が弱ってきてると思う、辛い			
1 尿もれについて家内には色々な話はしますが、そこまではしてないです			
2 頻尿について家内の相談はしていないトイレに行く様子を見ているから知っていると思う			
3 家内には自分からは頻尿のこと、相談はしたことはない			
4 尿もれについての電話相談しても良くなるものでもないしね			
5 おしっこが近いことは家内も見ているから知っています（相談はしていない）			
6 尿もれのこと、妻にも伝えてないこともある			
1 尿もれがあることを相談するような場所や人はいない			
2 本当に困っていることを親身になって話を聞いてくれる場所があったらいい			
3 尿もれの相談を詳しく話す相手はなくて辛い			
4 尿もれについての支援体制は、電話相談とかあればいいかもしれない			
5 相談する場所があっても本当に相談していいのか、ダメなのかわからなくて、一步引いてしまうことがある		困っているけど相談してない	
6 上部だけの付き合いで、本音で話せない場所はよくない			
7 どこか相談させてもらうところ、対応してもらえるところを考えていかないといけないのかな、と思います			
8 そのような場所、悩みや不安を相談できるところがあると不安は軽減できると思います			
9 夜中にトイレに3回も4回も起きやないかんとなると、相談したりしやないかんと思うんです			
1 頻尿に対する研究は、命にかかることではないから進まないのだろうな			
2 2時間おきにトイレに行かなくてもいいような効果のある薬が出るといいな			
3 こういう小さなこと頻尿に対する薬やけど研究が進むといいな			
4 頻尿について、誰か他の人からいい話（研究結果）があったらまた教えてください		頻尿治療の研究が進むといいな	
5 頻尿についてのコロナのように研究をしてもらいたい			
1 残尿検査ではいつもだいたい残ってて、ああ、てがっかりする			
2 昔のように（尿の）切れがいい感じでは出なくてがっかりする			
3 泌尿器科に行き残尿検査をし、残っていると尿が出しきれいていないんだとがっかりする			
4 2ヶ月に1回の残尿検査で、たくさん残っていることで出しきれいていない事がわかる			
5 残尿があるからトイレに行きたくなる頻度が早くなるのかなと思う			
6 キレが悪いんですね、しっかりと出し切ってから、しまうという形になるんですが、お腹が張って力めないんです			
7 看護師さんに残尿検査で20CCと言われると、ああ、残っていたなとがっかりする		残尿があることがわかってがっかりする	
8 残尿検査により残尿があることがわかると「やっぱりか」と悲しくなる			
9 全部出したら頻度が長くなるかなと思うけど残ったりしていてだめ			
10 便座に座ってするんですけど、そうすると、こう、昔のように、その、さーとは出ないです			
11 残尿がゼロになったら気持ちいいです			
12 尿はジョンジョリン、ジョジョリンと出るんです、勢いがなくて			
13 泌尿器科に行き残尿検査をし、残っていると尿が出しきれいていないんだと思う			
14 残尿感もあり不安がある			
1 一番最初の当時は、おしっこが近いなということで、不安だったので、泌尿器科さんで調べてもらったら前立腺肥大でした			
2 頻尿の事が気になって60歳を過ぎてから診察を受けた			
3 頻尿がひどいから自分から泌尿器科は受診しようと思った			
4 内科の医師から紹介されて泌尿器科に行った			
5 （尿もれや不安については）先生の言われる通りにしていますので安心です			
6 尿もれや頻尿が治らないかと思い、主治医から薬（漢方）を出してもらった			
7 ガスがお腹に溜まるもので、おしっこが出にくいんじゃないかと、気になっています			
8 おしっこが近くて病院で言われたことは、細菌が入っているんじゃないかと言うことでした			
9 ○○先生に出してもらった薬を飲むと少しおしっこ近いのが薬になるように思います		医療の力で頻尿が改善することを期待する	
10 水のものを見たとおしっこがしたくなるは、前立腺肥大の特徴なんかなと思います			
11 左の睾丸が痛いので、抗生物質を使ったらどうかと思うんです		受診をして不安を軽減したい	
12 排尿に関しては、一番何よりも前立腺肥大のことが一番不安なんです			

表2 コード、サブカテゴリー、カテゴリー			
	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
13	先生の言われる通りに、僕は前立腺について何の知識もないですから先生を信頼して、僕はそれが一番大切だと思うんですよ		
14	おしっこに何回も行かないかんということと、出る時に少し痛みを感じる時があって、僕にとっては一番気になることですね		
15	あまりきちんとした返事がいただけなかったことから、また病院を変わっているのです		
16	心配なので、今も定期的にお薬は飲んでます		
17	ちょっと、おしっこに短い時間で行ってしまうし、もしかすると何か異常があるのかなと思って病院に行った		
18	最初、おしっこが2時間おきくらいに出るので、何か問題があるのかなって思って受診した		
19	僕は主治医に尿もれのことや不安を言っているので安心です		
1	頻尿の薬を飲んでいますが、効かないです		
2	薬を飲んで、頻尿が良くなったという実感はない		
3	薬を飲んだからと言って、頻尿が治まるわけではない		
4	薬を飲んで、頻尿に効果があるより、胸やけがひどくて薬を飲むのはやめた		
5	スッキリ治る宣伝のような効果はないな		
6	頻尿が薬を飲んだからってすぐに効いてくれるといいんですけど		
7	主治医からもらった薬を飲んだけど、頻尿は変わらなかった□		
8	風邪薬のように、効かないです	薬を飲んでもあまり効果を感じなかった	
9	泌尿器科のどこの薬を飲んでもあまり変わらんな		
10	3か所の病院に行き、薬がみんな違ったけど効果はないな		
11	飲んだら頻尿が治るような、夢のような薬があったらいいです		
12	今までの頻尿の薬は3種類くらい飲んだが一向に治らない		
13	頻尿に対して画期的な薬ができればいいな、と思う		
14	泌尿器科には自ら受診したが、何も効果はなかったです		
15	あまり効果がないから一回薬を変えてもらった方がいいのかな		
16	テレビで言っているような頻尿薬があったら飲みたいですわ		
1	自分の不安について相談できるところがあるから安心です		
2	みんなに聞いてみるとおしっこのことは、自分だけじゃなかったんだなと思います		
3	友達とゴルフの時に、最近、尿が近い、夜何回も起きる、もれたりする、そういう話が出て、みんな同じだと安心する		
4	尿もれの相談は男友達にはできる	尿もれ現象に対する悩みや不安を打ちあけられると安心だ	
5	だいたい、友達が来るとおしっこの話が結構多くなる		
6	頻尿のこと、自分だけじゃないと思うと、変な安心感があります		
7	歳を重ねると友達との話の中にも尿もれの話はよく出る		
8	本当に相手の困っていることを聞いてくれると、人のことを信用できるようになる		
1	最初に妻に話す時は、恥ずかしかった		
2	洗濯物が増えると言ってある		
3	尿もれがあることは、妻は知っていて笑っています	尿もれ現象を友人や妻に理解してもらえて安心した	
4	妻は、今はもう、尿もれに関しては慣れたようです		
5	妻は尿もれに関しては、歳だから仕方ないと受け止めてくれている		
6	尿もれの相談は、相手が女性でとかミさんくらいしかできない		
7	妻は、今は、濡れたパンツもバジャマも洗濯をしてくれて助かります	妻に尿もれ現象のことを理解してもらっていると感じている	
8	今は、尿もれのことを妻には、笑い話にできる状態です		
9	頻尿のことは、妻には相談しています妻はだいたい理解してくれていると思います		
10	妻は、最初は尿を漏らしたことに驚いていました		
11	「もらしたん違うの」って言われて、そのことを話したら「あ、そうなんや」てなりました		
12	頻尿のことを妻に伝えることが言いにくいとかはないオープンです		
13	「その歳になったから（尿もれやその他の体の不調を）完璧に治すなんて考えない方がいいんじゃない」って言われ、「そうやな」で思って		

全体図

『自分なりの対処についての思い』

- ・尿もれ対処製品はつけ心地、見た目が悪くて嫌だ
- ・尿もれ対処製品を使うことで安心できる
- ・尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい

『支援に対する思い』

- ・尿もれ現象についての知識や情報がわからないのは不安だ
- ・医療の力で頻尿が改善することに期待する
- ・尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した

『尿もれ現象と共存していく思い』

- 1) 尿もれ現象は仕方ない
 - ・尿もれ現象に忍従している
 - ・これは歳だから仕方ない
- 2) 尿もれ現象は辛く、死をも連想させる
 - ・尿もれ現象のため何度もトイレに行くのが辛くて困る
 - ・昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ
 - ・老いや死を感じさせ不安だ



関連する思い

図1 尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

文献検討

尿もれ現象のある自立高齢男性がそれに対してどのような思いを抱いているのか、またその対処法、相談場所の有無など、日常生活を送るうえでどのような影響があるのか思いを明らかにし、本研究の焦点化を図ることを目的に文献検索を行った。

文献検索は、医学中央雑誌 Web 版 Ver. 5 を用いた。絞り込み条件は会議録を除く、看護文献、原著論文、最新 5 年を対象とし「尿失禁」「高齢者」「排尿」「心理」のキーワードで検索を行ったところ英語文献を含む 8 件がヒットした。その中で、本研究内容と関連のある 7 文献で検討を行なった。文献検討では、尿もれにより QOL に与える影響についての文献検討、尿もれに対する必要な支援の文献検討、尿失禁治療における医療者側からの情報提供の必要性の文献検討について述べ、最後に文献検討の総括を述べる。

1. 尿失禁により QOL に与える影響についての文献検討

尿失禁により QOL に与える影響について調査している 3 文献の文献検討を行った。田尻ら (2020) は、中高年女性において尿失禁が日常生活の QOL に与える影響として、【日常生活行動】【余暇行動】【気がかりな対人行動】の 3 つの因子を導き出し、「家庭や社会的にも役割を担っている中高年女性は、尿失禁があることで、家族との関係、家事をする、睡眠をとるなど日常生活行動を行うことに影響を及ぼしている。また、地域の集会に行く、娯楽を楽しむなど、他者との交流の場などでの余暇行動を行う際に、尿がもれてしまわないか、尿臭で尿もれがあることが気づかれるのではないかと不安な気持ちを持っている。そしてその不安から、他者の前で恥ずかしい思いをしないために活動を制限してしまうことがある」と述べている。また、鈴木 (2019) は、「虚弱高齢者における尿失禁は、医学的な問題を関連するだけでなく、自尊心の喪失、社会的活動や性的活動の制限およびうつ病などの心理社会的にも影響を及ぼす」ことを明らかにしている。国際禁制学会における虚弱高齢者の尿失禁に対する行動介入療法として、うながし排尿を実施することで、尿意を再獲得し、コミュニケーション能力が高くなる高齢者がいることを示唆している。さらに、平松ら (2009) は、前立腺全摘除術を受け退院後も尿失禁が続く患者へのインタビューから退院後の患者の QOL の実態として【尿失禁による苦痛】【生活不安や不快】【将来の不安】【性の虚しさ】【社会的活動の制限】【切なる希望】【模索】【対処行動】8 つのカテゴリーを導き出し、「尿失禁が続くことで苦痛を感じ、日常生活の不安や不快、ひいては将来の不安をも感じながら日常生活を過ごしている。このことから社会的活動の制限も余儀なくされている状況である。だからこそ、一日でも早く自分らしい日常生活を送りたいという思いで、尿失禁の改善策や対処方法を模索しながら対処行動をとっている」と述べている。これらの文献から、尿失禁が高齢者の日々の生活や対人関係、社会活動に影響を与えていることが明らかとなっている。また、高齢者はそれをなんとかしたいという思いで、尿失禁の改善策や対処法を模索していることが推察された。

2. 尿失禁に対する必要な支援についての文献検討

看護師が行う心理的支援について 3 文献を文献検討した。脳損傷による排尿抑制の遮断から、橋排尿中枢の排尿反射が生じやすくなる回復期脳卒中患者への支援として、脳卒中患者は、蓄尿症状と日常生活動作の自立度との関連においては、【尿意切迫感】【切迫性尿失禁】が負の相関関係を認めた。また、うつ状態との関連においては【尿意切迫感】【切迫性尿失禁】で中程度の相関関係が認められている。脳卒中患者は、頻尿、切迫性尿失禁が

病的状態であることに気づかず、過度の罪悪感を抱きやすい現状がある。阿部ら（2017）は、「看護職者は、脳卒中患者の病態、排尿動作のアセスメントとともに、脳卒中患者が体験している、排尿に対する不安やつらさといった心理反応に注目し、患者が一人で悩みを抱え込んでしまわないよう適切な支援が求められる」と述べている。また、前立腺全摘術後の患者は医学的には経過良好と判断され一見元気そうにみえても、患者は尿失禁が続く限り、ストレスフルな状況から引き起こされる感情と向き合い生活している。仙波（2016）は、「一般的に排泄に関する問題は、羞恥心を伴い他人には言い出しにくいことである。男性の前立腺がん患者の多くは自己の経験する精神的な反応よりも身体的症状を医療者に伝える傾向にあり、医療者は尿失禁の程度は理解できても、彼らを感じる日常生活への影響や困難さ、悩みを語らなければ知る機会は少なく、明らかにしにくい現状にある」と述べている。これらのことから、脳損傷による神経伝達の遮断が起こり、やむを得ず尿失禁などの排尿トラブルを抱えた患者が、排尿行為が自立できないことに加え、尿失禁があることでうつ状態に陥りやすいことが明らかになっている。そのために、看護師が行う心理的支援としては、患者が尿失禁の影響を受ける日常生活を、マネジメントしやすくなるよう細やかに支援することが必要であると述べている。次に、下部尿路はストレスに起因した機能障害を生じやすいことから、高齢期のいわゆる心因性泌尿器症状である、排尿困難や尿閉・頻尿について福井（2016）によると、「心因性切迫性尿失禁は、日々の社会生活を営む上で大きな支障が制限をもたらし、この困窮状態が自律神経に影響を与えて、いつそう症状の悪化を招くという悪循環を形成する」と述べている。高齢者の心因性下部尿路機能障害患者には自律神経症状が強く出現していることが多く、病態の把握や診断、治療に難渋することが多い。心因性の尿失禁は、日常生活上の制限だけでなく、そのことが自律神経に影響を与えさらに症状を悪化させることがあるために、専門医との協調下での診断、治療の必要性があると述べている。これらの文献から、尿失禁に対する必要な支援について、羞恥心を伴い他人には言い出しにくいことから、心理的支援を行う必要がある。また、排尿行為が自立できないことは、うつ状態に陥りやすいことも示唆されている。これらのことから、それを支援する医療職は、患者の身体症状だけに着目するのではなく、心理的なサポートを行う必要があることが明らかとなっている。

3. 尿失禁治療における医療側からの情報提供の必要性についての文献検討

尿失禁の治療手段における医療側からの情報提供の必要性について1文献を文献検討した。山下ら（2017）は、「尿失禁の治療手段について医療過疎地域においては、住民が医学的知識を得る機会が十分ではなく、今後は専門家におけるインターネットなどによる情報発信が、医療知識の地域格差を是正するのに役立つと思われる」と述べている。また、尿失禁症状を持ち合わせている女性の対処法として、骨盤底筋訓練などに興味を示している者はいるものの、正しい訓練の実施方法や治療法についての認識が薄いことが明らかになっている。このことから、尿失禁の治療法に対する十分な情報を得る機会がないことは、自身で取り組む対処法にも辿り着きにくいことが考えられる。尿失禁に対する支援として医療側からの医学的知識や情報提供の必要性が推察されている。

4. 文献検索のまとめ

今回の文献検索において自立高齢男性の尿もれ現象についての思いを問うような先行研究を見つけることができなかったため、上記についてまとめていくことにする。

尿失禁の経験のある中高年女性は、羞恥心や心理的な不安を持ちながら生活を行うことで、対人関係や社会活動において支障や制限が伴っている。匂いやもれが気になり日常生活や社会活動における QOL に影響を与えていることが明らかとなっていた。また、尿失禁がある虚弱高齢者に対して、それに至ったことへの思いやプロセスを知り、適切な支援を行うことで高齢者のできる力を発揮させる機会になり、QOL の維持にもつながることが示唆されている。そして、前立腺がん全摘除術後の患者や回復期脳卒中患者への心理的支援の必要性からも、自立高齢男性の尿もれ現象の思いを明らかにし、支援方法を探索する必要があるのではないかと考える。これらの文献から、自立高齢男性が尿もれ現象に対する思いをインタビューを通して明らかにしていく。尿もれ現象の対処法への思いや、相談先の有無など、相談先への思いを明らかにした文献を見つけることができなかった。そのため、実際に尿もれ現象のある自立高齢男性に対してインタビューを行うことは、研究者の行う研究の目的を遂行する必要性があると考ええる。

研究協力依頼の説明書

施設
施設長 様

三重県立看護大学看護学研究科

学籍番号：221604

申請者(研究責任者)氏名： 芝原弥千代

指導教員氏名： 六角 僚子

初秋の候、貴院にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、三重県立看護大学看護学研究科大学院生の芝原弥千代と申します。修士論文として下記課題名の研究をしております。お忙しいこととは存じますが、調査へのご協力をお願い致します。

研究課題名

「尿もれ現象のある自立高齢男性の思い」

この説明文書は、上記課題に関する研究にご協力いただくための説明文書であり、
令和 3 年 11 月 4 日に三重県立看護大学研究倫理審査会で承認されたものです。

1. 研究の目的と意義

尿もれ現象のある自立高齢男性の思いを明らかにすることは、高齢者の老いへの思い、パッドを選択・使用する際の不安など、日常生活を送る上での支障を知ることにつながると考えます。本研究を行うことで、今後の自立高齢男性の排尿トラブルへのケアの一助となると考えています。

2. 方法

自立高齢男性が、尿もれ現象があり尿とりパッドや尿もれ対処製品などを使用する本人の思いを30分程度の範囲で聞かせていただきます。その際に、どのような思いを抱いたのか、日常生活を送る上での支障や不安、生活に与える影響などを聞かせていただき、どのような支援があれば安心できたかなど、何点か伺います。内容の正確性を保つため、ご同意をいただいた上で、ICレコーダーによる録音とメモによる記録を行います。

3. 研究の任意性と撤回の自由

研究へのご協力は自由意思によるものです。承諾をいただいた後でもいつでもお断りしていただいて差し支えありません。研究へのご協力は自由意思によるもので、いつでもお断りいただけること、その後の対応に不利益が生じることは一切ないこと、答えたくない質問は、無理に答えなくても構わないことを説明いたします。研究協力への説明を行い、承諾を得られた際に署名をいただきます。

4. 研究の対象となる者の利益と不利益

資料 2-① 研究協力依頼の説明書（研究協力施設）

研究対象者が受ける利益としては、尿もれなどの排尿トラブルによって、本人にもたらす日常生活への支障を伺うことで、ご本人の不安を緩和できるのではないかと考えています。

研究対象者が利用する施設の利益としては、自立高齢男性の排尿トラブルに対する思いや不安を聞き取ることで、適切な支援方法を見出し、排尿トラブルがあったとしても本人の望む自立した日常生活を送ることができるよう、研究協力施設の介入支援に還元することができるのではないかと考えています。なお、研究協力施設には、研究対象者の排尿トラブルに対する思いや不安などを明確にし、後日レポートで報告させていただきます。

研究対象者に対する不利益としては高齢であること、話の内容によっては羞恥心を感じる可能性があり、心身疲労を感じる事が予測されます。研究対象者の表情の変化や言葉に注意を払い、そのような状況が見受けられた際には、インタビューを中止してレコーダーを止めて気持ちの受容と傾聴に努めます。

施設長に対する不利益としては、研究対象者選定のために行う聞き取りにより、時間的制約と精神的労力をおかけすることが考えられます。そのため以下の役割分担表を作成いたしました。以下の役割分担表に沿って行っていただくようお願いいたします。

【役割分担表】

	研究対象者に同意を得るまでの手続き
施設長	<p>①健診受診者の中から研究対象の該当と考えられる自立高齢男性を選択していただく。</p> <p>②研究対象の該当と考えられる自立高齢男性に、研究対象者紹介者リスト「研究対象者紹介のご依頼」（資料5）に記名することの許可を得る。（名前、連絡先、連絡可能な時間帯の記載の許可）</p> <p>③後日、研究者から研究内容について連絡があることを伝えていただく。</p> <p>④施設長への研究依頼の承諾は、2週間以内に「承諾書」（資料3）の返送を依頼する。</p>
研究者	<p>① 施設長に口頭にて「研究協力依頼の説明書（施設長用）」（資料 2-①）を用いて研究の趣旨、方法など研究協力依頼の説明を行う。</p> <p>② 施設長に研究対象の該当と考えられる自立高齢男性の紹介依頼を行う。</p> <p>③ 紹介いただいた研究対象者に電話連絡を入れ、研究協力依頼についてすべての資料「研究協力依頼の説明書（研修対象者用）」（資料2-②）「同意書」「同意撤回書」（資料4）を郵送することを伝える。同意が得られた場合は「同意書」（資料4）を返送してもらう。</p>
	研究対象者に同意を得たあとの手続き
研究者	<p>①研究対象者から同意書が届いたら、研究者から研究対象者に電話連絡を入れ、インタビューの日程調整を行う。</p> <p>②インタビューの実施場所、時間が決定した際には、インタビュー実施までに研究参加を辞退する場合の連絡先について確認する。</p>
	インタビュー実施時
研究者	①インタビュー実施時は、研究者は研究対象者のプライバシーを確保できる場長

	を準備する。
--	--------

5. 個人情報の保護

個人情報の保護に努め、個人や施設が特定されないように匿名性を遵守し研究を実施いたします。研究結果を公表する際にも匿名性を守り、内容を確認して頂いた上で公表します。研究で得られたデータ及び結果は施設できる保管場所で厳重に管理し、研究目的以外で使用しないことをお約束します。データを使用する際は、インターネット環境を排除したコンピュータを使用します。また、データは研究終了後、情報が漏洩されない方法で破棄します。この研究結果は、研究者の修士論文としてまとめ、学会や学術雑誌において発表する予定です。発表においても、個人や病院が特定できる内容は公表しません。

6. 費用負担と謝礼について

協力に際し費用の自己負担はございません。なお、インタビュー終了時に謝礼として研究対象者に QUO カード 2000 円分をお渡しいたしますのでご了承のほどお願い申し上げます。

7. ご協力いただきたい内容

1) インタビュー調査の参加者の紹介

自立高齢男性 10 名程度とします。a. 65 歳以上、b. 尿もれや尿失禁を自覚しているもの、c. パッドなどの対処製品を使用しているもの、d. 自らの意思で行動、判断できるもの、e. インタビュー実施の同意を得たものとします。前立腺全摘除術後の者は除外します。

2) 実施場所

インタビューの実施場所は研究対象者に合わせて貴施設に利用させていただくこともあります。

8. 新型コロナウイルス感染対策について

感染管理につきましては新型コロナウイルス感染症対策医療向けガイドラインを参考に下記の感染防止対策を実施いたします。

- ・研究者、参加者ともにインタビュー当日を含め 2 週間以内に 37.5 度以上の発熱がないことを確認する。
- ・手指消毒用のアルコールジェルを準備し、研究者、参加者ともに入室前には手指消毒を行う。
- ・インタビュー実施時は研究者、参加者ともにサージカルマスクを着用する。
- ・インタビュー実施時は研究者、参加者が対面とならないよう配慮する。
- ・インタビュー実施時はプライバシーの保護に留意しながら室内の換気を行う。
- ・インタビュー後は室内の消毒を施設の規定に沿って行う。

9. お問い合わせ先

この研究に関して、ご不明な点、ご心配な点などございましたら、下記にお問い合わせ下さい。

研究者：〒514-0116 三重県津市夢が丘 1－1－1
三重県立看護大学大学院看護研究科 看護学専攻
大学院生 芝原弥千代
e-mail: ma221604@mcn.ac.jp
指導教員：三重県立看護大学 在宅看護学教授 六角僚子
電話番号 059－233-5655（直通）
e-mail : ryoko.rokkaku@mcn.ac.jp

10. 苦情の申し入れ先

苦情の申し入れにつきましては、以下の電話番号・内線番号にご連絡ください。

〒514-0116 三重県津市夢が丘 1 丁目 1 番地 1
三重県立看護大学 事務局財務・運営課
研究倫理担当 北川さつき
電話番号 059－233-5600（代表）
e-mail : satsuki.kitagawa@mcn.ac.jp

研究協力依頼の説明書

様

三重県立看護大学看護学研究科

学籍番号：221604

申請者(研究責任者)氏名： 芝原弥千代

指導教員氏名： 六角 僚子

私は、三重県立看護大学看護学研究科大学院生の芝原弥千代と申します。

加齢による排尿メカニズムの変化は、高齢者の生活に大きな影響を及ぼします。女性に見られる尿道内圧の低下による腹圧性尿失禁、男性の前立腺肥大症による尿閉や溢流性尿失禁などの出現により、トイレに行って用を足すという行為が自分の思い通りにできなくなってくることがあると考えられます。高齢者にとって、排泄が自立して遂行できることは、生命と健康を維持し安寧に過ごせるために重要です。特に自立高齢男性の排尿トラブルに対する適切な支援や関わりを知ることは、高齢者の日常生活を支えることであり、生活の質に値するものと考えます。そこで、自立している高齢男性の排尿トラブルの現状やそれに対する思いや不安を知り、そこに適切な支援を探求しアドバイスをを行うことで、生活の質向上に繋がりたいと、私は考えます。

この説明文書は、あなたを研究対象者として選出させて頂くための説明文書になります。

研究課題名

「尿もれ現象のある自立高齢男性の思い」

この説明文書は、上記課題に関する研究にご協力いただくための説明文書であり、令和 3 年 11 月 4 日に三重県立看護大学研究倫理審査会で承認されたものです。

1. 目的

尿もれ現象のある自立高齢男性の思いを明らかにすることは、高齢者の
老いへの思い、パッドなどを選択・使用する際の不安など、日常生活を送る
上での支障を知ることにつながると考えます。本研究を行うことで、今後の
自立高齢男性の排尿トラブルへのケアの一助となると考えています。

2. 方法

日常生活における排尿トラブルについて 30 分程度お話しして頂きます。
その際何点か伺わせて頂きます。インタビューは、インタビュー内容の正確
性を保つために、ご同意を頂いた上で IC レコーダーによる録音とメモによ
る記録を行わせて頂きます。

3. 研究の任意性と撤回の自由

研究へのご協力は自由意思によるものです。研究参加の意向を示した後も、
インタビューの実施前・実施中・実施後ともに研究参加への同意を撤回でき
ます。インタビューの参加者は実施後 2 週間以内であれば撤回できます。撤
回後はインタビューデータおよび個人情報等、全て削除いたします。研究へ
の参加を辞めたい意思が出た際は、ご遠慮なく研究者までご連絡を頂きます
ようお願い申し上げます。そのようなことでその後の支援に不利益が生じる
ことは一切ありません。また、答えたくない質問は、無理に答えていただか
なくても構いません。

4. ご協力いただきたい内容

この研究は、研究者が研究対象者の指定される場所に伺わせて頂き、排尿に関するトラブルについての思い、対処法についてその場で 30 分程度お話しを聞かせて頂き、お話しを頂いた内容を研究のデータとさせて頂くものです。以下の手順で研究を進めさせて頂きます。

- ① この研究を進めるにあたり、あなたの氏名、年齢を研究者に教えて頂きたいと申し上げます。研究への参加の協力を頂くことができるようでしたら、別紙「同意書」（資料 4）に署名と捺印を頂きたいと思います。研究への参加の同意を得られた方を研究対象者とさせて頂きます。
- ② 研究者は研究対象者のご意向に合わせて場所に出向きインタビューをさせて頂きます。インタビューは、ご同意を頂いた上で IC レコーダーによる録音とメモによる記録を行わせて頂きます。

5. 研究の対象となる方の利点と不利点

研究対象者が受ける利点としては、尿もれなどの排尿トラブルによって、本人にもたらす日常生活へ支障を伺うことで、ご本人の不安を軽減できるのではないかと考えています。どのような問題があるのか知ることができると、それに対する適切な対処方法を見出すことができるのではないかと考えます。排尿トラブルがあっても、研究対象者の望む自立した日常生活を送ることができるよう研究者からアドバイスをさせていただきます。不利点として、排尿という羞恥心を伴うことのインタビューにより、話の内容によっては精神的負担を感じる可能性があります。そのような状況が見受けられた際には、

すぐにインタビューを中止いたします。また、答えたくない質問については話していただかなくても問題ございません。

6. 情報を公にしないお約束

研究の実施や研究結果を公表する際には、個人の情報の非公開を守ります。研究対象者や施設がわからないように配慮いたします。また、研究で得られたデータ及び結果は施錠できる保管場所で厳重に管理し、研究目的以外で使わないことをお約束します。データを使用する際は、インターネットの接続がない場所で作業を行います。また、データは終了後、研究の情報が漏れない方法で破棄します。

この研究結果は、研究者の修士論文としてまとめ、学会や学術雑誌において発表する予定です。発表においても、個人や施設が特定できる内容は公表しません。

7. 費用の負担と謝礼について

協力に際し費用の自己負担はございません。なお、インタビュー終了時に謝礼として 2000 円の QUO カードをお渡しいたします。

8. 新型コロナウイルス感染対策について

感染管理につきましては新型コロナウイルス感染症対策医療向けガイドラインを参考に下記の感染防止対策を実施いたします。

- ・研究者、研究対象者ともにインタビュー当日を含め 2 週間以内に 37.5 度以上の発熱がないことを確認します。

- ・手指消毒用のアルコールジェルを準備し、研究者、研究対象者ともに入室前には手指消毒を行います。
- ・インタビュー実施時は研究者、研究対象者ともにサージカルマスクを着用します。
- ・インタビュー実施時は研究者、研究対象者が対面とならないよう配慮します。
- ・インタビュー実施時はプライバシーの保護に留意しながら室内の換気を行います。
- ・インタビュー後は室内の消毒を施設の規定に沿って行います。

9. お問い合わせ先

この研究に関してご不明な点、ご心配な点などございましたら、下記にお問い合わせ下さい。

研究者：〒514-0116 三重県津市夢が丘1-1-1
三重県立看護大学大学院看護研究科 看護学専攻
大学院生 芝原弥千代
e-mail: ma221604@mcn.ac.jp
指導教員：三重県立看護大学 在宅看護学教授 六角僚子
電話番号 059 - 233 - 5655（直通）
e-mail: ryoko.rokkaku@mcn.ac.jp

10. 苦情の申し入れ先

苦情の申し入れにつきましては、以下の電話番号・内線番号にご連絡ください。

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
三重県立看護大学 事務局財務・運営課
研究倫理担当
電話番号 059-233-5600（代表）

西暦 年 月 日

承 諾 書

三重県立看護大学学長 殿

研究課題名

尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

私は、上記研究題目における研究に参加するにあたり、研究者から以下の項目について説明を受け、私の自由意思による参加の中止が可能であることを含め理解しましたので、この研究に参加することを承諾いたします。

本研究について説明を受け、理解した項目を□の中にレをご記入ください。

☐ 研究の目的と意義☐ 方法

について

☐ 研究の任意性と撤回の自由☐ 研究の対象となる者の利益と不利益☐ 個人情報の保護☐ 費用負担と謝礼について☐ ご協力いただきたい内容☐ 新型コロナウイルス感染に☐ お問い合わせ先☐ 苦情の申し入れ先

施設名 : _____

署名 : _____

署名年月日 : 西暦 年 月 日

研究者の連絡先 学籍番号：221604 研究者：芝原弥千代

指導教員 六角 僚子

所属・役職 在宅看護学 教授

住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1

三重県立看護大学

電話番号（指導教員直通） 059-233-5655

受領日 西暦 年 月 日

承 諾 撤 回 書

三重県立看護大学学長 殿

研究題目

尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

私は、上記研究題目における研究に参加するにあたり、担当者から説明を受け、十分理解し同意しましたが、私の自由意思による参加の中止も自由であることから、この研究参加への承諾を撤回したく、ここに承諾撤回書を提出します。

施設名 : _____

署名 : _____

署名年月日 : 西暦 年 月 日

今回の研究について、承諾が撤回されたことを認めます。

研究者の連絡先 学籍番号：221604 研究者：芝原弥千代

指導教員 六角 僚子

所属・役職 在宅看護学 教授

住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1
三重県立看護大学

電話番号（指導教員直通） 059-233-5655

西暦 年 月 日

同意書

三重県立看護大学学長 殿

研究課題名

尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

私は、上記研究題目における研究に参加するにあたり、研究者から以下の項目について説明を受け、私の自由意思による参加の中止が可能であることを含め理解しましたので、この研究に参加することに同意します。

本研究について説明を受け、理解した項目を□の中にレをご記入ください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 目的 | <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染対策について |
| <input type="checkbox"/> 方法 | <input type="checkbox"/> お問い合わせ先 |
| <input type="checkbox"/> 研究の任意性と撤回の自由 | <input type="checkbox"/> 苦情の申し入れ先 |
| <input type="checkbox"/> ご協力いただきたい内容 | |
| <input type="checkbox"/> 研究の対象となる方の利点と不利点 | |
| <input type="checkbox"/> 情報を公にしないお約束 | |
| <input type="checkbox"/> 費用の負担と謝礼について | |
| <input type="checkbox"/> 同意が任意のものであり、同意しない場合も不利益をうけないこと | |
| <input type="checkbox"/> 研究参加の意向を示した後でも、いつでも同意を撤回できること | |
| <input type="checkbox"/> インタビューの参加者は実施後 2 週間以内であれば撤回でき、撤回後はインタビューデータおよび個人情報等、全て削除する。その場合も不利益をうけないこと | |

本人署名 :

署名年月日 : 西暦 年 月 日

同席者署名 :

(複数署名可)

研究者の連絡先

学籍番号 : 221604 研究者

芝原弥千代

指導教員

六角 僚子

所属・役職

在宅看護学 教授

住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1

三重県立看護大学

電話番号 (指導教員直通) 059 - 233 - 5655

受領日 西暦 年 月 日

同 意 撤 回 書

三重県立看護大学学長 殿

研究課題名

尿もれ現象のある自立高齢男性の思い

私は、上記研究題目における研究に参加するにあたり、担当者から説明をうけ、十分理解し同意しましたが、私の自由意思による参加の中止も自由であることから、この研究参加への同意を撤回したく、ここに同意撤回書を提出します。

本人署名 : _____
署名年月日 : 西暦 年 月 日

今回の研究について、同意が撤回されたことを認めます。

研究者の連絡先 学籍番号 : 221604 研究者 芝原弥千代
指導教員 六角 僚子
所属・役職 在宅看護学 教授
住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1
三重県立看護大学
電話番号（指導教員直通） 059-233-5655

施設
施設長 様

研究対象者紹介のご依頼

本研究へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

対象者の条件は以下の a～d すべてにおいて該当される方です。（前立腺全摘除術を受けたものは除く）お手数をおかけいたしますが、研究該当者として選定させていただく旨をお伝えいたしますようお願いいたします。

a. 65歳以上 b. 尿失禁や尿もれを自覚しているもの

c. パッドなどの対処製品を使用しているもの d. 自らの意思で行動、判断できるもの

ご紹介頂ける研究対象者の情報を以下にご記入くださるようお願い申し上げます。

NO.	フリガナ 氏 名	ご連絡先（電話番号）	連絡可能な時間
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

・ ご記入いただいた個人情報は、本研究の目的以外には使用いたしません。

※ご不明な点がございましたら、お手数をおかけいたしますが下記までお問い合わせをお願いいたします

〒514 - 0116 三重県津市夢が丘 1 丁目 1 番地 1

三重県立看護大学看護学研究科 看護学専攻

大学院生 芝原弥千代 e-mail : ma221604@mcn.ac.jp

指導教員 在宅看護学教授 六角僚子 連絡先 : 059-233-5655（直通）

インタビューガイド

1) 事前準備

- (1) インタビュー実施日：研究対象者と調整し決定する。
- (2) インタビュー場所：協力施設、または研究対象者の希望に沿う。
研究対象者に確認し個室で行う。
- (3) インタビュー時間：30 分程度とする。
- (4) インタビュー前：日常生活で健康に関して気をつけていること、習慣などの情報を得る
- (5) 必要物品
 - ・研究協力依頼の説明文 ・同意書 ・IC レコーダー
 - ・筆記用具、メモ用紙

2) 質問内容

- (1) あなたは、排尿時にトラブル（尿もれなど）があることをどのように感じていますか。
- (2) 排尿時のトラブルについてどのように対処してきましたか。（衛生材料品、方法など）また、なにか困っていることはありませんか。
- (3) あなたは、排尿トラブルに関して何か予防的にしていることはありますか。それはどのような方法ですか。
- (4) 排尿時のトラブルについてどなたか相談する人はいますか。どんな相談ができれば不安が軽減されると思いますか。
- (5) 排尿トラブルがあることで、外出を控えたり、他者との交流をためらったり（例えば夫婦関係など）することはありますか。その理由はなぜですか。
- (6) 排尿トラブルがあっても、対処しながらこの先の日常生活の中で、変わらずにしていきたいことはどんなことですか。

3) フェイスシート※本人から以下の情報をわかる範囲で収集する

- (1) 既往歴、服薬内容
- (2) 家族構成
- (3) 社会活動の範囲（地域との交流）
- (4) 健康に対する本人の思い